

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニング I (Career Planning I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	矢作 友規
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日2時限
【授業の学習内容】 自分自身の進路(自分らしく生きる道)を見つけるために、本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせば良いのか「気づき」を得る。 また、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えを理解し、自己管理と協働作業が実践的にできるようになる。							
【到達目標】 セルフマネジメント(自己管理)を実践できる。 チームマネジメント(協働作業)を実践し、集団での役割を果たすことができる。 自己の働く意義(勤労観・職業観)を説明できる。 社会人として必要な社会性・人間性を理解し、実践できる。 目指す動物業界を理解し、その特徴を説明できる。 自己実現(夢を叶える)のための目標設定をし、実践できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション・クラス目標決め・Eボードの見方・グループワーク①かたちをつくろう・「習慣」プリント配布
2回目	個人目標の設定・キャリアサポートアンケートの実施・個人面談の予告・1週目を終えて授業の受け方の確認(準備・ノートの取り方・号令や掃除の仕方)
3回目	GWの過ごし方について(課題:教科書第一章のレポート・読書感想文・業界リサーチなど)・SSCと図書室の紹介・安全講習①～動画(自転車編)～・学校生活アンケート①
4回目	GWの振り返り・安全講習②～動画(悪徳商法編)～・グループワーク②
5回目	安全講習③～動画(性犯罪編)～・学園祭の話し合い・中間試験週について
6回目	安全講習④～動画(薬物乱用防止編)～・学園祭の話し合い・グループワーク③もじもじゲーム
7回目	グループワーク③TED「だったらこうしてみたら？」より・学園祭の話し合い・中間評価
8回目	学園祭の準備・学校生活アンケート②・グループワーク④私の四面鏡
9回目	学園祭の振り返り
10回目	成功の原則～卒業生たちから見る行動の原則～
11回目	グループワーク⑤ 履歴書の書き方講座
12回目	夏休みの過ごし方(課題:自己分析・履歴書にトライ・読書感想文など) グループワーク⑥
13回目	夏休みの振り返り 試験規程 進級に必要な単位数などの学生便覧記載内容の確認と理解
14回目	評価試験 履歴書作成のポイント①(志望動機・自己PRのまとめ方) スポーツフェスタの話し合い どうぶつ愛護フェスティバル①
15回目	前期の振り返り及び後期の授業について スポーツフェスタの話し合い どうぶつ愛護フェスティバル②
準備学習 時間外学習	・事前課題などの各種レポートを書く ・就職ガイダンスや企業説明会など、就職関連のイベントに参加する ・動物施設での校外学習に参加する ・学校行事に参加する ・世の中の時事に関心を向ける
評価方法	・出席率:50% ・授業への参加態度・課題などの提出と記入内容:30% ・試験:20%
【使用教科書・教材・参考書】 Hand-book of Life Style	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅠ (Career planningⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	矢作 友規
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日2時限
【授業の学習内容】 自分自身の進路(自分らしく生きる道)を見つけるために、本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせば良いのか「気づき」を得る。 また、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えを理解し、自己管理と協働作業が実践的にできるようになる。							
【到達目標】 セルフマネジメント(自己管理)を実践できる。 チームマネジメント(協働作業)を実践し、集団での役割を果たすことができる。 自己の働く意義(勤労観・職業観)を説明できる。 社会人として必要な社会性・人間性を理解し、実践できる。 目指す動物業界を理解し、その特徴を説明できる。 自己実現(夢を叶える)のための目標設定をし、実践できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	後期スケジュール確認 スポーツフェスタ振り返り(グループワーク、発表) どうぶつ愛護フェスティバル③
2回目	履歴書作成のポイント②(専門分野で学んだこと・最近の関心事のまとめ方) どうぶつ愛護フェスティバル④
3回目	履歴書作成のポイント③(履歴書の完成) どうぶつ愛護フェスティバル⑤
4回目	学校生活アンケート③ グループワーク① どうぶつ愛護フェスティバル⑥
5回目	動物愛護フェスティバル⑦
6回目	就職ガイダンスに向けて準備
7回目	どうぶつ愛護フェスティバルの振り返り・就職ガイダンス②
8回目	進級課題(内容決め・資料探し)
9回目	業界研修に向けて(キャリアセンターよりガイダンス)
10回目	進級課題(発表資料作成)
11回目	進級課題(発表準備)
12回目	進級課題(発表) 期末試験について キャリアセンター登録票をもとに希望進路を考える
13回目	・We are ECO(卒業進級制作展)の話し合い
14回目	評価試験・We are ECO(卒業進級制作展)の話し合い
15回目	業界研修に向けて(研修ノートについて・目標を明確に理解し、備える)・We are ECO(卒業進級制作展)の準備・2年次に向けて
準備学習 時間外学習	・事前課題などの各種レポートを書く ・就職ガイダンスや企業説明会など、就職関連のイベントに参加する ・動物施設での校外学習に参加する ・学校行事に参加する ・世の中の時事に関心に向ける
評価方法	・出席率:50% ・授業への参加態度・課題などの提出と記入内容:30% ・試験:20%
【使用教科書・教材・参考書】 Hand-book of Life Style	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	プレゼンテーション I (Presentation I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田代マキ
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限
【授業の学習内容】 社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。 表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習 ※担当教員: キャリアカウンセラー(技能士2級)、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリア教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や 管理職研修を行い、就職支援からリーダーシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。							
【到達目標】 元氣な挨拶 相手の立場を考えて話す力 文章組み立て力 周りと協力する力 復習力							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業の内容と意義について
2回目	なぜ学校で学ぶのか？グループワーク討議・伝え方のポイント
3回目	言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて
4回目	表情の意味・視線伝達マーク
5回目	相手意識を持った伝え方自己表現練習
6回目	聞くと聴くの違いと、きき上手のポイント
7回目	他己紹介準備
8回目	他己紹介
9回目	報告の仕方・PREP法を身につける。
10回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション準備
11回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション披露
12回目	言葉遣いと敬語の使い方①グループで美化語見つけ
13回目	言葉遣いと敬語の使い方②敬語を使用しての場面練習
14回目	前期評価テスト
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習、振り返り学習あり
評価方法	・プレゼン力: 40% ・傾聴力: 30% ・筆記試験: 30%
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナルテキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	プレゼンテーション I (Presentation I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田代マキ
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限
【授業の学習内容】 社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。 表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習 ※担当教員実務経験:キャリアカウンセラー(技能士2級)、精神保健福祉士、公認心理師。学校関係へのキャリア教育や企業研修を通して社会人基礎力や管理職研修を行い、就職支援からリーダーシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。							
【到達目標】 前期の目標に続き、更にグループの中の個の役割を果たす努力ができる 会話力やプレゼンテーション力を磨き現状の自分を知り、自信をもって、主体的に人と関わって行けるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	後期の目標設定
2回目	ストレス対策 性格の作られ方
3回目	効果的な質問の方法 他己紹介後期編準備
4回目	他己紹介 自己成長評価
5回目	バーバルコミュニケーションとグループワーク
6回目	ノンバーバルコミュニケーションとグループワーク
7回目	中間評価
8回目	仕事遂行能力ベアワーク
9回目	仕事遂行能力グループワーク
10回目	グループワークディスカッションと発表(意見とアイデア)
11回目	グループワークディスカッションと発表(課題解決)
12回目	一年間の成長プレゼン①
13回目	一年間の成長プレゼン②
14回目	前期評価テスト
15回目	前期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習、振り返り学習あり
評価方法	・プレゼン力:40% ・傾聴力:30% ・筆記試験:30%
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナルテキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習 (Computer Skills Practice)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	千葉恵一
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日2時限
【授業の学習内容】 業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく 前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する 前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。 ※実務者経験 滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(23年)							
【到達目標】 教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる Wordを使ってレポート作成が出来るようになる 安全にインターネットを利用できるようになる 「We are ECO」のスライドが作れるようになる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション/ITリテラシー①
2回目	ITリテラシー②
3回目	Wordの基本操作①
4回目	Wordの基本操作②
5回目	Wordの基本操作③
6回目	Wordの基本操作④
7回目	Wordの基本操作⑤
8回目	Word中級編①
9回目	Word中級編②
10回目	Word中級編③
11回目	Wordの応用①
12回目	Wordの応用②
13回目	Wordの応用③
14回目	期末評価/Wordの応用まとめ
15回目	PowerPoint基礎①
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作のを確認する
評価方法	小テスト(20%)＋中間評価テスト(30%)＋期末テスト(50%) ※中間・期末の評価は提出作品(Word作品提出)
【使用教科書・教材・参考書】 Word office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版) Excel office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習 (Computer Skills Practice)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	千葉恵一
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日2時限
【授業の学習内容】 業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく 前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する 前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。 ※実務者経験 滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(23年)							
【到達目標】 教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる Wordを使ってレポート作成が出来るようになる 安全にインターネットを利用できるようになる 「We are ECO」のスライドが作れるようになる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	PowerPoint基礎(印刷、スライドマスター、切り替え効果、アニメーション)
2回目	PowerPoint課題提出
3回目	Excelの基礎①
4回目	Excelの基礎②
5回目	Excelの基礎③
6回目	Excelの基礎④
7回目	Excel中級編①
8回目	Excel中級編②
9回目	Excel中級編③
10回目	Excel中級編④
11回目	Excelの応用①
12回目	Excelの応用②
13回目	Excelの応用③
14回目	期末評価/Excel応用まとめ
15回目	まとめ(Word・Excel・PowerPoint)
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作のを確認する
評価方法	小テスト(20%)＋中間評価テスト(30%)＋期末テスト(50%) ※中間・期末の評価は提出作品(PowerPoint作品提出・Excel作品提出)
【使用教科書・教材・参考書】 Word office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版) Excel office365&2021 COMPUTER BASIC of Windows (株式会社滋慶出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	アニマルベーシック (Animal Study Basics)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西嶋武頼
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日4時限
【授業の学習内容】 動物業界の職業に携わるために必要な知識を学ぶ上で学んでおきたい生物学の基礎的な内容について、生物知識、動物医療、飼育現場、環境保全等の観点から解説します。							
【到達目標】 1. 生物の進化や分類、血液、公衆衛生、濃度計算など、動物に関する基礎知識や技能について、理解し、説明できる。 2. 動物の生体防御システムや分泌系など動物医療に関連する内容について理解し、説明できる。 3. 栄養素や遺伝・DNAと、それに関連するバイオテクノロジーなど、動物の飼育現場で必要とされる知識について理解し、説明できる。 4. 生物多様性の重要性や外来種・絶滅危惧種、地球環境の問題、保全に関する法律や条約について理解し、説明できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション、生物知識①(進化・分類・光合成・食物連鎖)
2回目	生物知識②(血液・公衆衛生・濃度計算)
3回目	動物医療(生体防御・分泌系)
4回目	飼育現場①(栄養素・遺伝)
5回目	飼育現場②(DNA・バイオテクノロジー)
6回目	環境保全①(生物多様性・外来種、絶滅危惧種)
7回目	環境保全②(環境問題・エコロジー、関係法規)
8回目	期末試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	講義内容に該当する教材のページ、授業資料の内容の復習(授業で扱った分野の内容について、背景・知識を理解し、自分の言葉で説明できるようになることを目指してください)。期末試験に加えて、全6回授業内確認テストを行いますので、毎回の授業内容の復習を心掛けてください。興味関心に従い、授業内容以外の自主的な学習を推奨します。授業内容についてはもちろん、発展的内容に関する質問も歓迎します。
評価方法	1).出席 30 % 2)授業内確認テスト 20 % 3).期末試験 50 % ※その他、講義受講態度、講師の質問に対する回答意欲なども成績に加味します。
【使用教科書・教材・参考書】 ECO業界で役立つ基礎生物(株式会社滋慶出版)	

2024年度 シラバス

科 目 名 (英語表記)	動物の体のしくみ (Animal Anatomy and Physiologi)	必修 選択	必修	年 次	1	担当教員	高山 清次
		授業形態	講義	総時間 (単位)	15	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業と遠隔授業の併用		(1)	曜日・時限	不定期
【授業の学習内容】							
犬を中心とした基本的な動物の体の構造・骨格や生理的な知識について、理解することを目的とする。							
※担当教員：麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了 / 獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】							
犬の体を構成する各機関の位置、構造、機能をそれぞれ理解することにより、動物の飼養管理や疾病予防に役立つことを目標としている。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	外皮系、消化器系(歯・食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆のう・膵臓)の構造と働きについて理解できる。
2回目	泌尿器系(腎臓・膀胱)、呼吸器系(気管・肺)の構造と働きについて理解できる。
3回目	生殖器系(雄性生殖器・雌性生殖器)、内分泌系(下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・胸腺)の構造と働きについて理解できる。
4回目	循環器系(心臓・血液循環・リンパ系)、感覚器系(眼球・耳)の構造と働きについて理解できる。
5回目	神経系(脳・脊髄)、筋系(骨格筋・横隔膜)の構造と働きについて理解できる。
6回目	骨格系(骨格)、細胞の構造と働きについて理解できる。
7回目	評価及び振り返り
8回目	まとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】	
「イラストで見る動物の体のしくみ(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物の健康管理 (Animal Healthy Management)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高山 清次
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業と遠隔授業の併用			曜日・時限	不定期
【授業の学習内容】 動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解することを目的とする。 ※担当教員：麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】 動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解できている。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ウオンバット・キツネ・キリン・カンガルーなどの飼養管理について理解できる。
2回目	クマ・タヌキ・ゾウ・ニホンザルなどの飼養管理について理解できる。
3回目	アザラシ・イルカ・ウミガメ・クラゲなどの飼養管理について理解できる。
4回目	イヌ・ネコ・ウサギ・インコ・モルモットなどの飼養管理について理解できる。
5回目	ウシ・ウマ・ニワトリ・ブタなどの飼養管理について理解できる。
6回目	評価及び振り返り
7回目	まとめ
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	テキストの範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 「イラストで見る動物の飼養管理(ECO専門基礎科目テキストセット) 株式会社滋慶出版」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物行動論 (Animal Behaviour Theory)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	PositiveWind 福島・新免
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日 4時限
【授業の学習内容】							
動物が行動することを科学する。動物行動学と応用行動分析学の基本をみにつけ、犬を中立に観察し、われわれのあまりにも近くに存在している犬の育て方について見直し・再構築をする能力の基本をみにつける。応用行動分析学の基本をしっかり習得し、後期の犬のトレーニング理論へとつなげる。 ※担当教員実務経験：2005年より犬の保育園・しつけ方教室PositiveWindを主催し、「正の強化」の方法でのおだやかな犬育ての経験多数。福岡県内各保健所での犬しつけ講師・愛玩動物飼養管理士スクーリング講師・下関動物愛護センター犬のしつけ講師・環境省や福岡県獣医師会から依頼の講師経験多数。							
【到達目標】							
動物行動学の基本用語・応用行動分析学の基本用語を正しく習得。犬の行動観察・人間の行動観察の時に行動学用語を駆使して冷静に分析する能力を身に着ける。ひいては後期の問題行動の修正の考え方やトレーニング理論へとつながる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	講師自己紹介・この授業の進め方・動物行動学の基礎・行動とは
2回目	生得的行動 犬の発達段階 犬のコミュニケーション
3回目	生得的行動から習得的行動へ 反射(レスポナント行動)と 馴化と 古典的条件づけ(レスポナント条件づけ)隠蔽&阻止
4回目	ワークショップ1 クリックのチャージ ビデオと体験
5回目	オペラント条件づけ① および中間テスト演習
6回目	前期中間テスト および振り返り
7回目	オペラント条件づけ② 好子の学習 正の強化 負の弱化
8回目	オペラント条件づけ③ 嫌子の学習 正の弱化・負の強化
9回目	オペラント条件づけ④ 好子の学習 を深める 強化子の種類と確立操作
10回目	安全管理と環境整備 犬の動きや目線の管理で行動を予測するトレーニング
11回目	ワークショップ2 犬の体をスケッチ・骨格をよく見て・保定や、さわる場所を予測する
12回目	ワークショップ3 モデル犬での体験 さわる場所 保定のイメージ
13回目	期末テスト前演習
14回目	期末テスト および振り返り
15回目	犬と犬との相性 人と犬の相性 物や音と犬
準備学習 時間外学習	自作プリントを教科書がわりとして、中心に進めていきます。参考文献として紹介しています「ドッグトレーナーに必要な子犬レッスンテクニック」ヴィベケ・リーセ著(誠文堂新光社)を準備学習として読むことをお勧めします。
評価方法	定期テストにて知識・技術の到達評価を行う。 ●中間テスト(テスト点結果の評価ポイントを、点数の30%とする) ●期末テスト(テスト点数結果の評価ポイントを、50%とする) 授業姿勢評価を最高20ポイントとし、全ポイント合計を評価ポイントとする。
【使用教科書・教材・参考書】	
自作プリント 他参考文献「ドッグトレーナーに必要な子犬レッスンテクニック」ヴィベケ・リーセ著 (誠文堂新光社) 「学習の心理」実森正子中島定彦共著 (サイエンス社) 「実験心理学」大山正編著 (サイエンス社)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物行動論 (Animal Behaviour Theory)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	PositiveWind 福島・新免
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日 1時限
【授業の学習内容】							
前期の行動科学の基本をもとに、トレーニングにどのように応用できているか、その方法論と実際に体験学習もふまえながら理解をすすめる。パピーのトレーニング・一般のトレーニング・問題行動の修正トレーニングから行動治療の考え方まで。 ※担当教員実務経験：2005年より犬の保育園・しつけ方教室PositiveWindを主催し、「正の強化」の方法でのおだやかな犬育ての徹底研究と実践により経験多数。福岡県内各保健所での犬しつけ講師・愛玩動物飼養管理士スクーリング講師・下関動物愛護センター犬のしつけ講師・環境省や福岡県獣医師会から依頼の講師経験多数。							
【到達目標】							
動物行動学の基本をふまえた上で、パピーのトレーニング・一般の基本のトレーニングから問題行動の修正トレーニングまでどのように応用されているか、そして、それを知ることがトレーニング技術習得や向上に役立つことを目的とする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	トレーニングと行動分析学 嫌子を使う副作用(学習性無力感) 好子を使う副作用(消去)
2回目	ワークショップ1 「消去」の手続き後におこりうる行動を考える 犬と人で2パターン
3回目	消去の副作用 分化強化 シェイピング
4回目	ワークショップ2 シェイピング人でのクリックートレーニング
5回目	トレーニングテクニック エトセトラ いろんな考え方
6回目	中間テスト及び振り返り
7回目	トレーニングテクニック いつキューをつける プロンプト 弁別刺激
8回目	ワークショップ3 リードワーク
9回目	問題行動への対応 ハズバンダリートレーニング
10回目	問題行動への対応 吠えの予防 トイレトレーニング
11回目	問題行動への対応 行動治療の考え方
12回目	ワークショップ5 モデル犬での体験 目線の管理と頭のコントロール(輪に首を通す)
13回目	テスト前演習
14回目	後期期末テスト及び振り返り
15回目	講師のモデル犬での、様々なトレーニング実演
準備学習 時間外学習	自作プリントを教科書がわりとして、中心に進めていきます。参考文献として紹介しています「ドッグトレーナーに必要な子犬レッスンテクニック」ヴィベケ・リーセ著(誠文堂新光社)を準備学習として読むことをお勧めします。
評価方法	定期テストにて知識・技術の到達評価を行う。 ●中間テスト(テスト点結果の評価ポイントを、点数の30%とする) ●期末テスト(テスト点数結果の評価ポイントを、50%とする) 授業姿勢評価を最高20ポイントとし、全ポイント合計を評価ポイントとする。
【使用教科書・教材・参考書】	
自作プリント 他参考文献「ドッグトレーナーに必要な子犬レッスンテクニック」ヴィベケ・リーセ著 (誠文堂新光社) 「学習の心理」実森正子中島定彦共著 (サイエンス社) 「実験心理学」大山正編著 (サイエンス社)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	次世代のための環境教育 (Environmental Study for the Next Generation)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大橋 光雄
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日1限
【授業の学習内容】 環境問題の概略を理解し、ジレンマや事例研究を参考にトリレンマ懸案をどのように自分たちの職場や社会にしていくなか、またワークショップ(workshop)を用い読み解く力をつける。 ※担当教員実務経験:福岡県キャンプ協会名誉会長、元(公益社)日本キャンプ協会 理事 専門委員、キャンプディレクター1級、プロジェクトワイルドファシリテーター、アメリカ冒険学校 NOLS WRWコース終了。							
【到達目標】 自分たちの業界と環境問題のつながりを知り、環境教育の必要性と目的を理解する。また、自然環境の一員としての人間の位置づけを環境倫理の面から掘り下げて考察する。その上で主に9のカテゴリーで環境教育を紐解き多様な考えや社会経済との結びつきを考えることができるようになる。各時間の授業のPPTを用い内容にそった講義とワークショップ(workshop)を通して理解を深めるようにする。また、実際に今の環境教育が考えられるように新聞報道や環境教育の取り組みアクティビティ等演習を実施する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ガイダンス・環境教育の必要性と目的 環境倫理 ジレンマからトリレンマ 異常気象
2回目	世界の環境問題(海洋と生物多様性)仕組みと身近な事例
3回目	環境教育における環境倫理 有害廃棄物の越境移動 マイクロプラスチック
4回目	職場を取り巻く環境問題 日本の環境教育の流れ「関心・理解・行動」
5回目	理解度の確認 Q&A 環境クイズ エコ検定
6回目	環境教育における環境倫理 野生生物種の減少
7回目	試験の解説と補足
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	1
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回動画や新聞を題材に用いアクティブラーニングESD(Education for Sustainable Development) SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)等を用いる。世界の動きやニュースソースに関心を持ち環境用語を理解しておくこと。
評価方法	定期試験:80% 発表:10% 受講出席率:10%
【使用教科書・教材・参考書】 適宜 資料を配布する。 また授業理解のためのミニテストを行う。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	アニマルヒストリー (History of Interconnections between Animals and Humans)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	本村 直子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日2時限
【授業の学習内容】 人と動物の関わりには民族性や宗教、歴史的な背景などが大きく関わっている。この授業では、我々人間と動物がどの様に関わってきたのか(動物との関わり(歴史)また、これからの日本にも求められる「動物福祉」を理解する事で、グローバルな流れを学ぶ。 ※担当教員実務経験:犬の飼育環境やコミュニケーションの方法等、飼い主と愛犬の暮らしをサポートするコンパニオンアニマル・アドバイザー。 飼い主とその愛犬の暮らしをより豊かなものにする為のカウンセリングやマナースクール、セミナーを開催。							
【到達目標】 文化や生活様式、宗教や時代背景による動物観の違いを理解している。 自分自身の動物観を認識している。 日本人と動物との関わり方を理解している。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業内容と進め方、自己紹介
2回目	人と動物との関わり(飼育動物と野生動物との関わりについて理解している)
3回目	人と動物との関わり(家畜との関わり…家畜の定義を理解する)
4回目	人と動物との関わり(家畜との関わり…家畜の分類を理解する)
5回目	人と動物との関わり(家畜との関わり…家畜の分類を理解する)
6回目	日本人と動物との関わり(日本人と家畜との関わりを理解する)
7回目	日本人と動物との関わり(仏教の動物観を理解する)
8回目	日本人と動物との関わり(神道の動物観を理解する)
9回目	日本人と動物との関わり(日本人の動物観の歴史を理解する)
10回目	日本人と動物との関わり(明治以降の動物観を理解する)
11回目	西洋人と動物との関わり(「キリスト教」の影響を理解する)
12回目	西洋人と動物との関わり(西洋の動物虐待の背景を理解する)
13回目	西洋人と動物との関わり(虐待から保護へとどう変わっていったのかを理解する)
14回目	評価試験および振り返り
15回目	動物福祉(アニマルウェルフェア)とは？(動物福祉について正しく理解する)
準備学習 時間外学習	「自分たちがどういった動物との関わりの中で生活しているのか?」「動物の幸せとは?」について考えてをまとめておくこと。動物に関するニュースや出来事について情報収集しておくこと。 授業での学びをノート等にまとめておくこと。
評価方法	筆記試験で100%評価
【使用教科書・教材・参考書】 動物年表で見るアニマルヒストリー(滋慶出版) アニマルウェルフェアとは何か?(岩波ブックレット) 日本の動物観(東京大学出版会)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	犬の飼養管理 (Dog Nutrition and Feeding)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高原 志保
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3時限
【授業の学習内容】 犬を飼育するにあたって、犬の社会化や安心して過ごせる環境への配慮、その他法令等、飼い主として果たすべき責任・配慮が必要とされる。この授業では、動物福祉施設及び動物病院での勤務、一般家庭犬のしつけの仕事を行う講師から、仕事での実務経験を基にした犬の飼育に必要な環境や対応を学ぶ。 ※担当教員実務経験：動物福祉の現場や動物介在活動に長年関わってきた講師が授業を行う。							
【到達目標】 犬と人との関わりについて説明できる。 人間社会において犬と生活する為の飼い主の責務及びマナーを説明できる。 犬のライフステージにおける成長と必要なしつけに関して説明できる。 授業を通して様々な価値観に触れ、自分なりの飼養感を育て言葉にすることが出来る。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ガイダンス・自己紹介
2回目	人と犬の関わり方の歴史
3回目	破壊作用 動物愛護法
4回目	動物愛護法と適正飼育基準
5回目	動物愛護法と適正飼育基準
6回目	動物愛護法(復習テスト)
7回目	犬のライフステージ
8回目	犬のライフステージ
9回目	犬のライフステージ
10回目	犬を迎える
11回目	犬を迎える
12回目	家庭犬のしつけ・マナー
13回目	家庭犬のしつけ・マナー
14回目	評価試験及び振り返り
15回目	テスト返却、解答、解説および振り返り 犬を送る
準備学習 時間外学習	配布プリントや教科書の予習、まとめなどの復習を行う。 レポートの作成。 小テストの実施と復習を行う。
評価方法	筆記試験/授業内評価 期末評価(筆記):50% 小テスト、レポート評価:50%
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント 新聞・ネットの動物(犬)飼育に関する記事	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コンパニオンドッグ (Companion Dog)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	間 美加
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日2時限
【授業の学習内容】 犬はこれまで歴史と共に用途に向けて品種改良され、日本国内でも数多くの犬種が登録されている。この授業では犬種の特性を活かしたスポーツドッグの育成・トレーニングに長く携わる講師が、JKCに登録されている犬種の歴史や用途、特徴を解説する。 ※担当教員実務経験:犬種の特性を活かしたスポーツドッグの育成・トレーニングに長く携わり、日本フリスビードッグ協会主催の大会で数多くの入賞経験を持つ。							
【到達目標】 JKCにおける10グループ分類と各グループの代表的な犬種を説明できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	犬の歴史、進化と品種改良
2回目	グループ内容説明、JKC公認犬種
3回目	第1グループ シードッグ
4回目	第1グループ コリー犬種、シェパード
5回目	第1グループ キャトルドッグ、その他
6回目	第2グループ ビンシャー & シュナウザー
7回目	第2グループ モロシアン犬種説明
8回目	第2グループ スイスマウンテンドッグ
9回目	第3グループ テリア、狩猟犬種～愛玩犬
10回目	第3グループ 犬種説明
11回目	第3グループ 犬種説明
12回目	第4グループ ダックスフンド
13回目	第5グループ スピッツ 日本犬種
14回目	テスト (第1～第5 日本犬種まで) 振り返り
15回目	テスト見返し
準備学習 時間外学習	最新犬種図鑑に記載されている各犬種グループをまとめること。
評価方法	筆記試験/実技試験 筆記試験:80% 授業参加度:20%
【使用教科書・教材・参考書】 最新犬種図鑑(インターズー)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コンパニオンドッグ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	間 美加
	(Companion Dog)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日3時限
【授業の学習内容】							
犬はこれまで歴史と共に用途に向けて品種改良され、日本国内でも数多くの犬種が登録されている。この授業では犬種の特性を活かしたスポーツドッグの育成・トレーニングに長く携わる講師が、JKCに登録されている犬種の歴史や用途、特徴を解説する。							
※担当教員実務経験:犬種の特性を活かしたスポーツドッグの育成・トレーニングに長く携わり、日本フリスビードッグ協会主催の大会で数多くの入賞経験を持つ。							
【到達目標】							
JKCにおける10グループ分類と各グループの代表的な犬種を説明できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	第5グループ スピッツの歴史、犬種説明
2回目	第5グループ プリミティブタイプ
3回目	狩猟犬とグループ分け内容
4回目	第6グループ 犬種説明
5回目	第7グループ 犬種説明
6回目	第8グループ レトリバー
7回目	第8グループ その他の犬種説明
8回目	第10グループ サイトハウンド
9回目	第9グループ 愛玩犬の歴史
10回目	第9グループ 人気犬種の説明
11回目	第9グループ その他の犬種
12回目	第1～第10までの復習
13回目	非公認犬種 (Mixやハイブリッド含む)
14回目	テスト (第1～第10 代表犬種) 振り返り
15回目	テスト見返し
準備学習 時間外学習	最新犬種図鑑に記載されている各犬種グループをまとめること。
評価方法	筆記試験/実技試験 筆記試験:80% 授業参加度:20%
【使用教科書・教材・参考書】	
最新犬種図鑑(インターズー)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	家庭犬トレーニング演習Ⅰ (Family Dog Practical training Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	金川 英樹
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1.2時限
【授業の学習内容】 人と犬が互いに幸せに人間社会で暮らす為に犬のことを学ぶ必要がある。この授業では、家庭犬トレーナー（インストラクター）が飼い主と家庭犬へ指導している必要な基礎知識や犬を扱うスキル（リードや報酬の使い方、犬を扱うハンドリング、クリックートレーニング、犬に対する観察力等）、犬の言葉（サイン）を知ることと犬を理解し犬に優しい扱いができるようになる。JAHA認定家庭犬インストラクター（ドッグトレーナー）から指導を受け学内飼育犬での実践を行う。また、要所において振り返りや意見交換を行いながら深く犬のことを知っていく ※担当教員実務経験：犬のしつけ教室・幼稚園を運営する、JAHA認定の家庭犬しつけインストラクター。 一般の愛犬家からのニーズが高まっている犬に優しい正の強化を応用したトレーニングを実践できるようになる。 トレーニングの実践だけでなく、犬の学習におけるプロセスを理解した上で行えるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	①オリエンテーション（授業内容の説明等）②基礎講座：犬のしつけとその必要性 WanLifeの犬を連れてのデモンストレーション
2回目	①基礎講座：犬の行動と修正Ⅰ 報酬について②実技：リードの扱い方・フードの使い方（デリバリー）※学内飼育犬は不要
3回目	①基礎講座：褒める 犬具について②実技：褒めるタイミング リードの扱い方・フードの使い方 基礎（ホームポジション）
4回目	①講座：犬について（起源） ②実技：リードの扱い方 フードの使い方 実践 基礎（ホームポジション）
5回目	①講座：犬具 ②実技：褒める（報酬）タイミング リードの扱い方
6回目	①講座：犬についてⅠ（起源） ②実技：リードの扱い方（リードをたるませる、引っ張り、巻き取る）・フードの使い方 実践 応用
7回目	①講座：犬についてⅡ（起源） ②実技：フードの使い方 実践 応用
8回目	①講座：犬について（犬種1） ②実技：犬の観察（止まる・動く・仕草）
9回目	①講座：犬について（犬種2） ②実技：犬の観察 リードの管理 リードを使った抱っこ
10回目	①講座：犬について（犬種3） ②実技：犬の観察 ハンドターゲット1
11回目	①講座：犬の行動学1 犬との生活 ②実技：ハンドターゲット2（手についてくる マグネット、観察しながらコントロール）
12回目	①講座：犬の行動学2 領域と攻撃性 ②実技：ハンドターゲット3 ターゲティング 基礎
13回目	①講座：犬の行動学3 犬との生活 空間作り ルールづくり ②実技：ハンドターゲット4 ターゲティング 応用1
14回目	①講座：犬の行動学4 信頼関係 ②実技：ハンドターゲット5 誘導 お座り
15回目	①講座：犬の行動学5 犬のサイン（犬の言葉）を知る ②実技：ハンドターゲット6 お座りのステップアップ
準備学習 時間外学習	準備学習として、事前に配布したプリントを熟読して授業に臨むこと。 また、毎回授業始めに前回授業についての質疑応答を行うので、授業で学んだことと、配布されたプリントを読み直して振り返りを行うこと。
評価方法	授業内での授業態度70% 筆記テスト・実技テスト30%で評価
【使用教科書・教材・参考書】 使用教材：プリント配布 参考図書：テリー先生の犬のしつけ方教室 エクセレーテッドラーニング 相性の良いわんこがわかる本 カーミングシグナル	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	家庭犬トレーニング演習Ⅰ (Family Dog Practical trainingⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	金川 英樹
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1.2時限
【授業の学習内容】 人と犬が互いに幸せに人間社会で暮らす為に犬のことを学ぶ必要がある。この授業では、家庭犬トレーナー(インストラクター)が飼い主と家庭犬へ指導している必要な基礎知識や犬を扱うスキル(リードや報酬の使い方、犬を扱うハンドリング、クリックートレーニング、犬に対する観察力等)、犬の言葉(サイン)を知ることによって犬を理解し犬に優しい扱い方ができるようになる。JAHA認定家庭犬インストラクター(ドッグトレーナー)から指導を受け学内飼育犬での実践を行う。また、要所において振り返りや意見交換を行いながら深く犬のことを知っていく ※担当教員実務経験:犬のしつけ教室・幼稚園を運営する、JAHA認定の家庭犬しつけインストラクター。							
【到達目標】 一般の愛犬家からのニーズが高まっている犬に優しい正の強化を応用したトレーニングを実践できるようになる。 トレーニングの実践だけでなく、犬の学習におけるプロセスを理解した上で行えるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	①講座:下見 ②実技:散歩に必要なトレーニング
2回目	2コマ使ってのお散歩(準備・散歩・振り返り)
3回目	①講座:学習理論2 ②実技:クリックートレーニング
4回目	①講座:生活のニーズ(健康管理・マナー) ②実技:犬のお手入れ
5回目	①講座:学習理論3 ②実技:合図化
6回目	①講座:マナーチャレンジテスト ガイダンス ②実技:デモンストレーション チャレンジ
7回目	①講座:トレーニングの組み立て ②実技:マナーチャレンジテスト トレーニング 4項目
8回目	①講座:トレーニングの組み立て ②実技:マナーチャレンジテスト トレーニング 4項目
9回目	①講座:トレーニングの組み立て ②実技:マナーチャレンジテスト トレーニング 4項目
10回目	①講座:トレーニングの組み立て ②実技:マナーチャレンジテスト トレーニング 4項目
11回目	①講座:改善(修正)するための計画 ②実技:改善(修正)のトレーニング
12回目	①講座:学習理論4 ②実技:改善(修正)のトレーニング
13回目	①講座:飼い主のマナー(筆記テスト準備) ②実技:改善(修正)のトレーニング
14回目	①実技:マナーチャレンジテスト ※犬あり ②筆記テスト ※犬なし
15回目	①講座:応用行動分析学 ②実技:クリックートレーニング
準備学習 時間外学習	準備学習として、事前に配布したプリントを熟読して授業に臨むこと。 また、毎回授業始めに前回授業についての質疑応答を行うので、授業で学んだことと、配布されたプリントを読み直して振り返りを行うこと。
評価方法	授業内での授業態度70% 筆記テスト・実技テスト30%で評価
【使用教科書・教材・参考書】 使用教材:プリント配布 参考図書:トレーニング・ザ・ウェイナイン・グッド・シチズン	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	左藤 珠代
	(Practice of Dog TrainingⅠ)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日1時限
【授業の学習内容】 犬の訓練士として、犬が人間社会で暮らしていくためのしつけを理解し、適切な指示の出し方を学ぶことが必要。この授業ではJKCの訓練科目から正しい姿勢・リードの扱い方、人や犬の動きの基本を学び、学内飼育犬と共に実践する。 ※担当教員実務経験：(一般社団法人)ジャパンケネルクラブ 訓練範士 ドッグラン、しつけ教室、アジリティ教室を20年間運営。 現在は出張訓練専門とし、競技会での審査員、アジリティ競技会のチーフスチュワートの役割を担う。							
【到達目標】 JKCの訓練科目を理解すると共に、犬を足元つけて指示を与え、その状態を維持した歩行や基本の指示出しができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ハウス、ゲージ、サークルの設置、犬の出し入れ、リードの付け方
2回目	犬の出し入れ、基本姿勢(正しいヒールポジション)、リードの持ち方
3回目	「停座」指示の出し方、リードの使い方、停座の正しいフォームへの導き方
4回目	指示の重要性、褒めるタイミングと褒め方、犬にとっての褒美とは
5回目	「脚側停座」正しい位置と導き方及び指示、訓練用語
6回目	「脚側停座」指示(リード使い、体の動き、犬の動線)「脚側行進」指導手の歩き方
7回目	訓練用語テスト
8回目	脚側行進、まわれ右、脚側停座、(リード使い、指導手の指示の安定)
9回目	脚側行進、まわれ右、左回り、脚側停座(リード使い、指導手の指示の安定)
10回目	同上 反復練習
11回目	同上 反復練習
12回目	同上 反復練習
13回目	前期 学習事項反復練習
14回目	前期評価および振り返り(リード使い、声符、体符、基本姿勢、右回り、左回り、脚側行進、脚側停座)
15回目	前期復習
準備学習 時間外学習	学習準備として、授業で使用する「犬種」の特徴や習性等を調べておくこと。 また、授業前には、前回の授業の振り返りを行うので、学んだことを整理してノートにまとめておくこと。 犬飼育の際、日頃よりリードの着脱ハウスの出し入れ時より、犬の行動観察を求む。
評価方法	筆記試験/実技試験 授業態度:20% 中間評価(筆記):20% 期末評価(実技):60%
【使用教科書・教材・参考書】 参考図書:JKC訓練基本マニュアル	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習Ⅰ (Practice of Dog trainingⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	左藤 珠代
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日1時限
【授業の学習内容】 犬の訓練士として、犬が人間社会で暮らしていく為のしつけを理解し、適切な指示の出し方を学ぶことが必要。この授業ではJKCの訓練科目から正しい姿勢・リードの扱い方、人や犬の動きの基本を学び、学内飼育犬と共に実践する。 ※担当教員実務経験：(一般社団法人)ジャパンケネルクラブ 訓練範士 ドッグラン、しつけ教室、アジリティ教室を20年間運営。 現在は出張訓練専門とし、競技会での審査員、アジリティ競技会のチーフスチュワートの役割を担う。							
【到達目標】 JKCの訓練科目を理解すると共に、犬を足元つけて指示を与え、その状態を維持した歩行や基本の指示出しができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	JKC 家庭犬訓練試験初等科、実施要項説明
2回目	アイコンタクト、トリーツの使い方、トリーツの意義
3回目	「待て」指導手はどういう意識を持って犬に教えるべきか
4回目	「伏臥」誘導の仕方、姿勢のキープ
5回目	「伏臥からの停座」立止からの停座、伏臥からの停座は異なることを指導手が意識して教える
6回目	アイコンタクトを停座、伏臥、待ての課目と組み立てる
7回目	JKC家庭犬訓練試験初等科 筆記テスト
8回目	「立止」犬のフォーム 姿勢のキープ
9回目	「招呼」の 基本は脚側停座、招呼はゴールである脚側停座の徹底である
10回目	「脚側行進」出発、停止時の脚側停座の位置を意識する
11回目	脚側行進、停座、伏臥、右回り、左回り、停座招呼、脚側停座、アイコンタクト
12回目	脚側行進、停座、伏臥、右回り、左回り、停座招呼、脚側停座、アイコンタクト
13回目	後期学習事項反復練習
14回目	後期評価および振り返り
15回目	1年間 総復習
準備学習 時間外学習	学習準備として、授業で使用する「犬種」の特徴や習性等を調べておくこと。 また、授業前には、前回の授業の振り返りを行うので、学んだことを整理してノートにまとめておくこと。 犬飼育の際、犬に対して的確な指示を出す習慣を求む。
評価方法	筆記試験/実技試験 授業態度：20% 中間評価(筆記)：20% 期末評価(実技)：60%
【使用教科書・教材・参考書】 参考図書：JKC犬種標準書、JKC訓練基本マニュアル	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	学内犬飼育演習 (Dog Care Practice)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	牟田 杏奈
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日1時限
【授業の学習内容】 これから2年間、関わる学内犬について理解し関係を築くは今後のトレーニング演習での犬の扱いや反応にも影響する。この授業では、飼育管理で必要となる。犬舎の衛生管理、日頃の体調管理、犬とのコミュニケーションを学び実践する。 ※担当教員実務経験: 家庭犬トレーナーとして、しつけ教室の業務経験と災害救助犬の訓練士として現場経験あり。							
【到達目標】 ・犬舎を衛生に保つための掃除が出来る。 ・学内犬のコンディションを自らチェックし、正常な状態との違いに気づくことが出来る。 ・学内犬の課題(問題行動)に取り組む事が出来る。犬の適切な運動に取り組む事が出来るか。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業のオリエンテーション
2回目	犬とのコミュニケーション(触り方・扱い方)
3回目	飼育管理・衛生管理の必要性
4回目	学内犬飼育の仕方・犬舎の見学
5回目	学内犬飼育① (ハウスの練習)
6回目	学内犬飼育② (排泄だし)
7回目	学内犬飼育③(排泄だし)
8回目	学内犬飼育④ (排泄だし)
9回目	学内犬飼育⑤ (健康管理)
10回目	学内犬飼育⑥ (健康管理)
11回目	学内犬飼育⑦ (食事について)
12回目	学内犬飼育⑧ (特徴・行動1)
13回目	学内犬飼育⑨ (特徴・行動2)
14回目	前期評価 学内犬飼育
15回目	前期の授業振り返り 学内犬飼育⑩
準備学習 時間外学習	授業の内容をノートにまとめる。
評価方法	授業内評価(態度、積極的参加、発言力)70% ノート提出30%
【使用教科書・教材・参考書】 作成資料 JKC訓練基本マニュアル・愛犬飼育管理士教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	学内犬飼育演習 (Dog Care Practice)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	牟田 杏奈
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日1時限
【授業の学習内容】 これから2年間、関わる学内犬について理解し関係を築くは今後のトレーニング演習での犬の扱いや反応にも影響する。この授業では、飼育管理が必要となる。犬舎の衛生管理、日頃の体調管理、犬とのコミュニケーションを学び実践する。 ※担当教員実務経験: 家庭犬トレーナーとして、しつけ教室の業務経験と災害救助犬の訓練士として現場経験あり。							
【到達目標】 - 犬舎を衛生に保つための掃除が出来る。 - 学内犬のコンディションを自らチェックし、正常な状態との違いに気づくことが出来る。 - 学内犬の課題(問題行動)に取り組む事が出来る。犬の適切な運動に取り組む事が出来るか。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	学内犬飼育① (排泄だし・復習)
2回目	学内犬飼育② (担当犬)
3回目	学内犬飼育③ (健康管理)
4回目	学内犬飼育④ (ケアの仕方1)
5回目	学内犬飼育⑤ (ケアの仕方2)
6回目	学内犬飼育⑥ (ケアの仕方3)
7回目	中間評価 学内犬飼育⑦
8回目	学内犬飼育⑦ (担当犬課題を見つけよう)
9回目	学内犬飼育⑧ 課題取り組み1
10回目	学内犬飼育⑨ 課題取り組み2
11回目	学内犬飼育⑩ 課題取り組み3
12回目	学内犬飼育⑪ 課題取り組み4
13回目	学内犬飼育⑫ 課題取り組み5
14回目	期末評価 学内犬飼育・課題発表
15回目	1年間振り返り 学内犬飼育⑬
準備学習 時間外学習	授業の内容をノートにまとめる。
評価方法	課題発表30% 授業内評価(態度、積極的参加、発言力)50% ノート提出20%
【使用教科書・教材・参考書】 作成資料 JKC訓練基本マニュアル・愛犬飼育管理士教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	警察犬トレーニング I (Police Dog Training I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	吉岡 友里絵
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限
【授業の学習内容】 使役犬(警察犬)の育成において、訓練課目の実践だけでなく犬との関係性やモチベーションを引き出すコミュニケーションも必要である。この授業では、日本警察犬協会の公認訓練士から犬へのアプローチ及び警察犬訓練課目を学び、学内飼育犬と共に実践する。 ※担当教員実務経験：一般社団法人ジャパンケネルクラブ及び公益社団法人日本警察犬協会公認訓練士。 警察犬・家庭犬訓練所での訓練・飼育管理に携わり、各種競技会での入賞経験を持つ。							
【到達目標】 ・犬との関係性を築き、訓練へのモチベーションを引き出せる。 ・公認の警察犬訓練士になる過程を理解する。 ・訓練競技会での訓練課目を理解する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己紹介/見習い訓練士の仕事説明
2回目	警察犬課目ビデオ鑑賞及び訓練科目の説明
3回目	担当犬と親和を取る(オモチャでの遊び、招呼の練習)
4回目	持来欲、食餌を使った脚側行進、停座の練習
5回目	持来欲、食餌を使った停座、伏臥の練習
6回目	持来欲を使った停座、伏臥、立止の練習
7回目	評価及び振り返り
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	授業内容(トレーニング)内容をノート・レポートにまとめること。
評価方法	評価(筆記):100%
【使用教科書・教材・参考書】 警察犬協会豆辞典 警察犬訓練科目教本 公認訓練士に関する規定	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	補助犬トレーニングⅠ (Assistance Dog Training Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	木村 有希
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	不定期
【授業の学習内容】 介助犬及びその他の補助犬の育成に携わる上で、身体の不自由な方が社会生活を送る上での介助犬の役割や必要性を理解した上でトレーニングに取り組むことが必要とされる。 この授業では補助犬育成に携わる訓練士から補助犬の歴史や現代における必要性を学び、実践する。 ※担当教員実務経験：介助犬トレーナー。京都アシスタントドッグ育成協会代表。JKC公認訓練士							
【到達目標】 ・補助犬の歴史や法律、国内での普及に関して理解し、説明できる。 ・介助犬としての適性を理解し、犬を観察できるようになる。 ・介助犬のトレーニングの基礎を実践できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己紹介 補助犬について
2回目	身体障害者補助犬とは
3回目	関係法律について
4回目	介助犬について
5回目	トレーニング
6回目	トレーニング
7回目	トレーニング
8回目	トレーニング
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	授業内容(トレーニング実施)の記録を、レポート用紙にまとめること。
評価方法	筆記試験/実技試験 筆記試験： 実技試験：50 授業参加姿勢50
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	セラピー犬トレーニングⅠ (Therapy Dog TrainingⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	坪井 芳子
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日4時限
【授業の学習内容】							
アニマルセラピーの実際を学び、AAA(動物介在活動)を正しく理解し、セラピー犬のトレーニングの基礎を学ぶ。 ※担当教員実務経験: JAHA認定しつけインストラクター							
【到達目標】							
動物介在介入とは何かを理解して、犬も人も楽しめるハンドリングができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己紹介 アンケート JAHA訪問活動ビデオ ガイダンス
2回目	AAIとは 訪問活動に必要なトレーニング方法 ハンドリング
3回目	訪問活動とは ハンドリング
4回目	犬の社会化とは(訪問活動に必要な社会化) ハンドリング
5回目	犬はどのように学習するか HAB 原始の血の説 ハンドリング
6回目	小テスト ハンドリング
7回目	小テスト振り返り ハンドリング
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	授業中のハンドリングをレポートにまとめる。
評価方法	小テスト70% ハンドリング30%
【使用教科書・教材・参考書】	
配布プリント 犬語図鑑(KADOKAWA)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グルーミング概論 (Introduction to Basic Grooming)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	寺田 光徳
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3時限
【授業の学習内容】 犬の健康維持促進のためには犬自体を清潔に保つ必要がある。この科目では犬のグルーミングを行う目的や効果を理解し、実践する際に共通認識として把握しておくべき用語を学ぶことを目的とする。 ※担当教員実務経験：JKC福岡県クラブ連合会会長、JKC九州ブロックハンドラー委員会常任委員を務め、ドッグショーの審査、及び20年以上講師を勤める動物専門学校にて後進の指導を行い、フレンチブルドッグを専門に繁殖。ショーに参加して犬質の向上に尽力している。							
【到達目標】 グルーミング実習の前に犬体や骨格構造、犬に関する知識、又 グルーミング実習の基礎知識を深く理解して実習に臨む。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業の進め方、 グルーミングにあたっての犬との接し方、グルーマースピリッツ
2回目	犬の体と骨格
3回目	犬の体と骨格
4回目	ブリーディング
5回目	メディカルチェック
6回目	犬の飼育方法
7回目	トリミング用具と用途
8回目	器具の消毒と手入れ 犬の保定、拘束、取り扱い方
9回目	被毛の構造 シャンプー、リンス、トリートメントの基礎知識
10回目	小型犬のペISING
11回目	大型犬のペISING
12回目	グルーマーの獣医学(プリントJKCドッググルーミング マニュアルから)
13回目	グルーマーの基本(プリントJKCドッググルーミング マニュアルから)
14回目	評価試験および振り返り
15回目	グルーマーの基本(プリントJKCドッググルーミング マニュアルから) 授業振り返り
準備学習 時間外学習	滋慶教育科学研究所グルーミングテキスト / JKCドッググルーミングマニュアルをコピーして配布する。
評価方法	筆記試験(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶教育科学研究所グルーミングテキスト / JKCドッググルーミングマニュアルをコピーして配布する。次の授業で行う教材を予習、読み込んでおく事。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グルーミング演習 (Basic Grooming Practice)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	寺田光徳
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
	専攻名 ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3・4時限
【授業の学習内容】 犬の健康維持促進のために犬体を清潔に保つ必要がある。生体を用いながらグルーミング技術を身につける。 ※担当教員実務経験：JKC福岡県クラブ連合会会長、JKC九州ブロックハンドラー委員会常任委員を務め、ドッグショーの審査、及び20年以上講師を勤める動物専門学校にて後進の指導を行い、フレンチブルドッグを専門に繁殖。ショーに参加して犬質の向上に尽力している。							
【到達目標】 犬種・個体に合わせたグルーミングを実践することができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業オリエンテーション
2回目	犬を用いてデモンストレーション
3回目	グルーミング 小型犬3人1頭
4回目	グルーミング 小型犬3人1頭
5回目	グルーミング 小型犬2人1頭
6回目	グルーミング 小型犬2人1頭
7回目	グルーミング 小型犬2人1頭
8回目	グルーミング 中型犬3人1頭
9回目	グルーミング 中型犬3人1頭
10回目	グルーミング 大型犬4人1頭
11回目	グルーミング 大型犬4人1頭
12回目	グルーミング (小型犬 中型犬 大型犬)
13回目	グルーミング (小型犬 中型犬 大型犬)
14回目	評価試験 グルーミング (小型犬 中型犬 大型犬)
15回目	グルーミング (小型犬 中型犬 大型犬)
準備学習 時間外学習	グルーミングマニュアルの復習を行うこと。
評価方法	・実技評価・・・50点 ・実習態度・・・50点
【使用教科書・教材・参考書】 グルーミング用品一式	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ドッグスポーツ演習Ⅰ (Basic Dog Sport PracticeⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中尾 直譜
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日4時限
【授業の学習内容】 犬とのコミュニケーションや関係性を構築する為に、犬も人も楽しんで取り組めるドッグスポーツは有効である。 この授業ではドッグスポーツの一種「アジリティ」の基本ルールから使用機材、コースの走り方等を学び、その楽しさを知る。 ※担当教員実務経験:しつけ及びアジリティ教室を運営。またアジリティ世界大会への出場経験を持つドッグトレーナー。							
【到達目標】 アジリティの概要やルール、楽しさを理解する。 アジリティに使用する各種機材を正しく設置・使用できるようになる。 競技とドッグトレーニングとの関連性を理解して取り組めるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	犬のしつけ①(アジリティのルール)
2回目	犬のしつけ②(アジリティのルール)
3回目	ハードルを使った犬のトレーニング①
4回目	ハードルを使った犬のトレーニング②
5回目	ハードルを使った犬のトレーニング③
6回目	アジリティ初級編①
7回目	アジリティ初級編②
8回目	アジリティ初級編③
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	授業内容のまとめと復習をすること。 実習(競技会などへの見学参加)
評価方法	出席率100%
【使用教科書・教材・参考書】 アジリティ機材、オリジナル資料や映像(アジリティー動画など)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	コンディショニング	必修選択	必修	年次	1	担当教員	谷口 貴隆
	(Body Conditioning)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日・1時限
【授業の学習内容】							
実際にスポーツトレーナーからストレッチやトレーニングを学び、自身の健康管理の重要性を理解し、社会人として健康な心身をつくる。 授業の前半に各回ごとの【テーマ】の講義を、そして授業の後半に運動を全員で実際に行ないます。							
※担当教員実務経験： 小中高生を中心としたスポーツ選手の体づくりを20年間指導する。							
【到達目標】							
①運動を実践することで、体の動きやすさや疲れにくさなどを体感する。 ②運動を継続することにより健康的で丈夫な心身をつくる。 ③セルフコンディショニング(自身の体調管理)を私生活の中で実践できるように、コンディショニングの 知識を学び習得する。							
授 業 計 画 ・ 内 容							
1回目	コンディショニングとは ●個人シートの記入(運動経験や体調、ケガなど)						
2回目	体幹トレーニング＋ストレッチ＋リラクゼーション01 【健康とは】						
3回目	体幹トレーニング＋ストレッチ＋リラクゼーション02 【瞑想とは】						
4回目	体幹トレーニング＋ストレッチ＋リラクゼーション03 【柔軟性とストレッチ】						
5回目	体幹トレーニング＋ストレッチ＋リラクゼーション04 【筋力と筋トレ】						
6回目	体幹トレーニング＋ストレッチ＋リラクゼーション05 【有酸素運動と心拍数の測定】						
7回目	体幹トレーニング＋ストレッチ＋リラクゼーション06 【栄養 タンパク質、炭水化物、脂質】						
8回目	中間確認試験および振り返り						
9回目	体幹トレーニング＋ストレッチ＋リラクゼーション07 【栄養 ビタミン、ミネラル】						
10回目	体幹トレーニング＋ストレッチ＋リラクゼーション08 【睡眠】						
11回目	体幹トレーニング＋ストレッチ＋リラクゼーション09 【休養】						
12回目	体幹トレーニング＋ストレッチ＋リラクゼーション10 【RICE処置とは】						
13回目	体幹トレーニング＋ストレッチ＋リラクゼーション11						
14回目	●期末試験および振り返り						
15回目	体幹トレーニング＋ストレッチ＋リラクゼーション12						
準備学習 時間外学習	身体作りは、運動・栄養・休養の三本柱が基本となります。授業以外でも運動する時間を設けて、規則正しい生活を送りましょう。 授業や自宅で運動ができるようにヨガマットを準備してください。 (授業以外に実施するトレーニングメニューを配布)						
評価方法	①期末試験(実技)の結果 50% ②中間試験(筆記) 40% ③授業(トレーニング)の取り組み、ヨガマットの準備 10% 合計100%						
【使用教科書・教材・参考書】							
参考書:動作でわかる筋肉の基本としくみ (マイナビ) ヨガマット							

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクト (Company Project)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	各企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける。 ※担当教員実務経験:各企業にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案ができるようになる。 ・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。 ・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。 ・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。 ・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	プランニング・コミュニケーション①-1
2回目	プランニング・コミュニケーション①-2
3回目	プランニング・コミュニケーション①-3
4回目	プランニング・コミュニケーション①-4
5回目	プランニング・コミュニケーション①-5
6回目	プレゼンテーション①
7回目	プレゼンテーション②質疑応答
8回目	プランニング・コミュニケーション②-1
9回目	プランニング・コミュニケーション②-2
10回目	プランニング・コミュニケーション③-3
11回目	イベント運営・商品化①
12回目	イベント運営・商品化②
13回目	イベント運営・商品化③
14回目	まとめ①
15回目	まとめ発表
準備学習 時間外学習	・各自(各班)で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表内容:80% ・課題への参加度:20%
【使用教科書・教材・参考書】 現場での施設備品、道具類	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	進級課題 (Level Advancement Study)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	矢作 友規
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】							
学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う							
【到達目標】							
学習成果(知識・技術)をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	進級課題とは① ～進級課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	進級課題とは② ～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	進級課題の進め方 ～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定 ～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習① ～自分(班)のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習② ～途中経過の報告～
7回目	実践学習③ ～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備① ～パワーポイント作成～
9回目	発表準備② ～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③ ～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④ ～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤ ～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	進級課題の振り返り ～各自(班内)で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自(各班)で意見交換を随時行う。また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容:80% ・課題への参加度:20%
【使用教科書・教材・参考書】	
専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	業界研修 (Business Internship)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	随時
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。 ※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。 ・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。 ・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。 ・自らの「キャリア」をデザインできる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表(20%) これらを総合的に判断して評価
【使用教科書・教材・参考書】 キャリアセンターの参考情報	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別講義&見学 (Special Lecture)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。 学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。 ※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・動物業界で必要な知識や技術を理解し、身に付ける。 ・動物業界で必要な人間力を理解し、身に付ける。 ・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。 ・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 キャリアセンターの参考情報	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション (Global Communivcation)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	未定
【授業の学習内容】 好きな事について話すことができる。商品のレビューを読み、書くことができる。 平日、週末のアクティビティについて話すことができる。日常のアクティビティについてのレポートを読む、また書くことができる。 道順について尋ねる、また教えることができる。場所についての特徴について読み、書くことができる。 ※担当教員:英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】 よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1 回 目	個人的な情報をたずねる・説明する表現を学ぶ。Be 動詞を学ぶ、復習する。疑問代名詞[What]の使い方を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2 回 目	個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く。大文字、ピリオドの使い方を学ぶ。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3 回 目	「はい」「いいえ」で答える質問における [Is / Are]の使い方を学ぶ。家族について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4 回 目	年齢、誕生日に関する表現を学ぶ言い直しに関する言葉を学ぶ。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5 回 目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6 回 目	[it is]の使い方を学ぶ。家具について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7 回 目	ホームシェアについてのメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8 回 目	「現在形」陳述文を学ぶ (I, you, we)。好きな事について話す。	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9 回 目	連絡を取り合う方法について話す。相手の話を聞いていることを示す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10 回 目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11 回 目	「現在形」疑問文 (yes/no / WH-question)を学ぶ。時間・ルーティンについて話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12 回 目	日常のアクティビティについてのレポートを読む、書く。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13 回 目	[There (is, are), (a lot, some no)]の使い方を学ぶ。町にある場所について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14 回 目	道順について尋ねる、また教える際に使う表現を学ぶ情報を確認する。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15 回 目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	小テストの正解率にて評価 (前期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE1			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション (Global Communivcation)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	未定
【授業の学習内容】 週末に向けたアウトドア活動の計画を立てることができる。オンラインでの招待状を読み、書くことができる。 過去についての場所や出来事、過去の人について述べることができる。思い出の品についての記事やメールを読む、また書くことができる。 食べた食事について話すことができる。レストランのレビューを読む、また書くことができる。 ※担当教員: 英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】 よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	「現在進行形」疑問文を学ぶ旅行について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	最近の出来事についてのブログ記事を読む、書く。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	[Can / Can't](能力)を使う陳述文・疑問文を学ぶ。自身のスキルや能力について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	自分の意見を述べる。自分はある仕事の適任者であることを説明する。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて話す」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	[like to, want to, need to, have to]の使い方を学ぶ。使い分けがわかる旅行計画を立てる。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	旅行ガイドを読む、また場所の説明を書く。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	[be going to](陳述文)の使い方を学ぶ。週末に向けたアウトドア活動の計画について話す。	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	あることをやらないといけない理由を説明する。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画し、発表する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	「過去形」(was / were)の疑問文を学ぶ。色、記憶について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	思い出の品についての記事やメールを読む、書く。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	「過去形」の陳述文を練習する。スナック、軽食について話す。	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	[so / really](強調する)の使い方を学ぶ。食べ物・飲み物を注文する。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	小テストの正解率にて評価 (前期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE1			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	海外実学研修 (Overseas Practical Training)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	現地各施設実務従事者
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	未定
【授業の学習内容】 国際教育の一環として、実際に海外での施設見学、特別講義、自由行動を通し国際性を身に付け、グローバル化する現代社会で活躍できる人材育成を目的とする。 ※担当教員実務経験：海外における現地実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・最先端の動物、環境に関わる知識や技術を理解し身に付ける。 ・これからの業界に必要な考え方を理解し身に付ける。 ・世界における日本の立場を理解する。 ・自身のキャリアをデザインする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	訪問国、訪問施設を調べまとめる、班ごとに発表する
2回目	訪問国での施設見学、特別講義
3回目	訪問国での施設見学、特別講義
4回目	訪問国での施設見学、特別講義
5回目	訪問国での施設見学、特別講義
6回目	訪問国での施設見学、特別講義
7回目	訪問国での施設見学、特別講義
8回目	訪問国での施設見学、特別講義
9回目	訪問国での施設見学、特別講義
10回目	訪問国での施設見学、特別講義
11回目	訪問国での施設見学、特別講義
12回目	訪問国での施設見学、特別講義
13回目	訪問国での施設見学、特別講義
14回目	研修ノートのまとめ、レポート作成
15回目	海外実学研修の振り返り、発表、まとめ
準備学習 時間外学習	・【事前学習】訪問国、訪問施設を調べまとめる ・【事後学習】訪問施設を研修ノート及びレポートにまとめる
評価方法	・研修ノート、レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去の海外実学研修ノート	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	イベント運営 (Event Management)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各イベント実務従事者
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。 企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。 ※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・企画立案、運営ができるようになる。 ・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。 ・接客を知り、実践できるようになる。 ・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。 ・予算管理を実践し習得する。 ・スケジュールリングを理解し、実践できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備(50%) ・レポート(50%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去のイベント資料	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別課外活動 (Club Activities)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各クラブ顧問
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学生会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。							
【到達目標】 ・チームワークを身に付ける。 ・計画性を身に付ける。 ・予算管理を身に付ける。 ・マネジメントを理解し身に付ける。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ボランティア活動 (Volunteer Work)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。 ※担当教員:各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。 ・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去のボランティア活動報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	資格取得講座 (Seminar for a Qualification)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	矢作 友規
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。							
【到達目標】 ・各検定試験、資格試験の合格							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去の各検定、資格教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅡ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	村上 弘志
	(Career PlanningⅡ)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3時限
【授業の学習内容】 自分自身の進路(自分らしく生きる道)を見つけるために、本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせば良いのか「気づき」を得る。 また、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えを理解し、自己管理と協働作業が実践的にできるようになる。							
【到達目標】 セルフマネジメント(自己管理)を実践できる。 チームマネジメント(協働作業)を実践し、集団での役割を果たすことができる。 卒業後の進路を考え自己のキャリアデザインに取り組む。 卒業課題のテーマを定め取り組む。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	集団(クラス)づくりの理解と実践 (集団の中での自己の学校生活の土台づくりを行う)、クラス組織決め、クラス目標決め
2回目	セルフマネジメント(自己管理) 各自の目標決め、学園祭の話し合い
3回目	チームマネジメント① 学園祭の話し合い、GWの過ごし方、漢字テスト①
4回目	チームマネジメント② 学園祭の話し合い、GWの振り返り
5回目	チームマネジメント③ クラスにおける就活の動き、漢字テスト②
6回目	「キャリアデザイン」① : 合同企業説明会に向けての動き、学園祭の話し合い
7回目	「キャリアデザイン」② : 合同企業説明会、学園祭について、漢字テスト③
8回目	「キャリアデザイン」③ : 合同企業説明会及び学園祭の振り返り①
9回目	「キャリアデザイン」④ : 合同企業説明会及び学園祭の振り返り②、漢字テスト④
10回目	「キャリアデザイン」⑤ : 夏季業界研修準備Ⅰ 就職ポートフォリオ準備
11回目	グループワーク:成功の原則～卒業生たちから見る行動の原則～
12回目	「キャリアデザイン」⑦ : 夏季業界研修準備Ⅲ 夏休みの動きについて、スポーツフェスタの話し合い、どうぶつ愛護フェスティバル①
13回目	「集団での役割」の理解と実践 ① <スポーツフェスタ準備活動> ・ チームマネジメント(協働作業)Ⅰ、漢字テスト⑥、どうぶつ愛護フェスティバル②
14回目	評価週、前期の振り返り及び後期に向けて どうぶつ愛護フェスティバル③
15回目	「集団での役割」の理解と実践 ② <スポーツフェスタ準備活動> ・ チームマネジメント(協働作業)Ⅱ、漢字テスト⑦、どうぶつ愛護フェスティバル④
準備学習 時間外学習	・事前課題などの各種レポートを書く ・就職ガイダンスや企業説明会など、就職関連のイベントに参加する ・動物施設での校外学習に参加する ・学校行事に参加する ・世の中の時事に関心を向ける
評価方法	・出席率:50% ・授業への参加態度・課題などの提出と記入内容:30% ・試験:20%
【使用教科書・教材・参考書】 ・新社会人の基礎力109(滋慶出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅡ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	村上 弘志
	(Career Panning Ⅱ)	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日3時限
【授業の学習内容】 自分自身の進路(自分らしく生きる道)を見つけるために、本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせば良いのか「気づき」を得る。 また、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えを理解し、自己管理と協働作業が実践的にできるようになる。							
【到達目標】 セルフマネジメント(自己管理)を実践できる。 チームマネジメント(協働作業)を実践し、集団での役割を果たすことができる。 卒業後の進路を考え自己のキャリアデザインに取り組む。 卒業課題のテーマを定め取り組む。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	「キャリアデザイン」⑧：社会人基礎力Ⅰ 漢字テスト⑧ どうぶつ愛護フェスティバル⑤
2回目	「キャリアデザイン」⑨：社会人基礎力Ⅱ、漢字テスト⑨、どうぶつ愛護フェスティバル⑥
3回目	「キャリアデザイン」⑩：社会人基礎力Ⅲ、漢字テスト⑩、どうぶつ愛護フェスティバル⑦
4回目	「キャリアデザイン」⑪：社会人基礎力Ⅳ、漢字テスト⑪、どうぶつ愛護フェスティバル⑧
5回目	「キャリアデザイン」⑫：社会人基礎力Ⅴ、漢字テスト⑫、どうぶつ愛護フェスティバル⑨
6回目	「キャリアデザイン」⑬：社会人基礎力Ⅵ どうぶつ愛護フェスティバル振り返り
7回目	卒業課題①：卒業課題のテーマに沿った取り組みを行うⅠ 漢字テスト⑬
8回目	卒業課題②：卒業課題のテーマに沿った取り組みを行うⅡ
9回目	卒業課題③：卒業課題のテーマに沿った取り組みを行うⅢ 漢字テスト⑭
10回目	卒業課題④：卒業課題のテーマに沿った取り組みを行うⅣ
11回目	グループワーク:成功の原則～卒業生たちから見る行動の原則～
12回目	クラス内発表① 今年2024年の振り返り
13回目	クラス内発表② 今年の目標発表
14回目	クラス内発表③
15回目	学校生活2年間の振り返り
準備学習 時間外学習	・日々の学校生活を記録に残す ・OB/OGセミナー、合同企業説明会等就職関連イベントに参加する ・動物施設での校外学習に参加する ・事前課題など各種レポートを書く
評価方法	・出席率:50% ・授業への参加態度・課題などの提出と記入内容:30% ・試験:20%
【使用教科書・教材・参考書】 ・新社会人の基礎力109(滋慶出版)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	プレゼンテーションⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	川島よう子
	(Presentation Ⅱ)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日2時限
【授業の学習内容】 社会人として基本を身に着け、社会人基礎力の向上を目指す。 ワークを通して、自己肯定感・他者肯定感を高め、課題解決力を磨く。 ※担当教員実務経験：人材開発事業において業務リーダーとして部下の育成やコーディネーター業務全般に携わる。またキャリアコンサルタントの資格取得後は個別対応のキャリアコンサルティングから研修講師・ファシリテーターにも従事している。保持資格：JCDA認定キャリア・デベロップメント・アドバイザー、メンタルヘルス・マネジメント検定(Ⅱ種)、国家資格キャリアコンサルタント、健康経営エキスパートアドバイザー、筑波大学 キャリアプロフェッショナル養成講座 修了							
【到達目標】 ・社会人として必要な知識やスキル、コミュニケーション技術などを身に付ける。 ・社会人基礎力の習得をする。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション 「社会人基礎力とは」
2回目	「規律性」とは、ビジネスマナー
3回目	「課題発見力」とは、個人ワーク・グループワーク
4回目	「状況把握力」とは、グループワーク
5回目	「計画力」とは、時間管理・優先順位のつけ方
6回目	自己理解⇒自己PR準備
7回目	自己PR(発表)、バーバル・ノンバーバル、接客用語
8回目	「発信力」とは、会話力、電話応対
9回目	「傾聴力」とは、聴き方の基本
10回目	「実行力」「柔軟性」とは、グループディスカッション
11回目	「働きかけ力」「創造力」とは
12回目	「主体性」とは、チームで確認バトルワーク
13回目	前期評価テスト対策 (プレゼン・一般常識復習)
14回目	前期評価テスト 試験後、前期の振り返り
15回目	半年間のまとめ、自己理解・他者理解
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	・プレゼン力:30% ・傾聴力:30% ・筆記試験:40%
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナルテキスト 予習・復習参考書：一緒にいると楽しい人、疲れる人(PHP研究所)、まんがでわかる超一流の雑談力(宝島社)、最短で目標を達成する！PDCAノート(フォレスト出版)、まんがでわかる7つの習慣(宝島社)、社会人基礎力講座(日経BP社)、わかる社会人基礎力(誠信書房)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	プレゼンテーションⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	川島よう子
	(Presentation Ⅱ)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日2時限
【授業の学習内容】 前期で学んだ社会人としての基本について、ワークを中心に、実践・応用する。 ワークを通して、自己肯定感・他者肯定感をさらに高める。 ※担当教員実務経験：人材開発事業において業務リーダーとして部下の育成やコーディネーター業務全般に携わる。またキャリアコンサルタントの資格取得後は個別対応のキャリアコンサルティングから研修講師・ファシリテーターにも従事している。保持資格：JCDA認定キャリア・デベロップメント・アドバイザー、メンタルヘルス・マネジメント検定(Ⅱ種)、国家資格キャリアコンサルタント、健康経営エキスパートアドバイザー、筑波大学 キャリアプロフェッショナル養成講座 修了							
【到達目標】 ・社会人として必要な知識やスキル、コミュニケーション技術などを向上させる。 ・思考力、チームワーク、チャレンジ精神などを身に付け、職務遂行能力に繋げる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	後期への抱負・目標設定
2回目	社会人として働くという事、電話応対(ロープレ)
3回目	第一印象の良さは信頼に繋がる
4回目	好印象な表情と話し方、敬語
5回目	PDCA、敬語の練習(言い換え)、一般常識
6回目	仕事の指示の受け方、他己紹介、準備
7回目	社会人として(遅刻・欠勤・早退)、他己紹介 発表
8回目	報連相、社会人としての役割
9回目	挨拶はマナーの基本、右脳伝達ワーク
10回目	アサーティブコミュニケーション、電話応対
11回目	会話について、電話応対(伝言編)
12回目	社会人基礎力まとめ、表現力を磨く
13回目	社会人基礎力まとめ、後期評価テスト 準備
14回目	後期評価テスト 試験後、後期の振り返り
15回目	一年間のまとめ、仕事観(ディスカッション)
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	・プレゼン力:30% ・傾聴力:30% ・筆記試験:40%
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナルテキスト 予習・復習参考書:一緒にいると楽しい人、疲れる人(PHP研究所)、まんがでわかる超一流の雑談力(宝島社)、最短で目標を達成する! PDCAノート(フォレスト出版)、まんがでわかる7つの習慣(宝島社)、社会人基礎力講座(日経BP社)、わかる社会人基礎力(誠信書房)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	デジタルコンテンツ演習 (digital content Development Practice)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	坂井 隆仁
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日2時限
【授業の学習内容】 商用利用のSNSで使う動画を自分で編集し投稿する。 ※担当教員実務経験： 営業、Webディレクター、ブライダルサービス、PA、カフェ運営の現場で様々なスキルを身に着けた講師として、パソコンの実務的な使い方を学習していきます。 授業終了時には、自分のパソコンを自由に使いこなせる様に授業を進めていきます。							
【到達目標】 パソコン内データの取り扱い方が分かり、自分で撮影した動画を編集しSNSに投稿することができるようになる。 また、商業利用のSNSで注意する事や、ホームページの作成活用方法等もわかるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション: 自己紹介、USBメモリの使い方がわかる。ショートカットを使えるようになる。 タイピング練習をしてキーボードに慣れる。
2回目	画像加工: remove bgを使い画像加工をし、自由に使えるようになる。
3回目	PowerPoint課題: 2人チームで、おとぎ話のスライド作成。画像挿入ができるようになる。
4回目	PowerPoint課題: 2人チームで、おとぎ話のスライド作成。文字入力装飾ができるようになる。
5回目	PowerPoint課題: 2人チームで、おとぎ話のスライド作成。アニメーション、画面切り替えができるようになる。仕上げ
6回目	PowerPoint課題: 2人チームで、おとぎ話のスライド作成。上映会を実施します。
7回目	動画編集: 環境整備、静止画を使った動画作成、アニメーションを使えるようになる。
8回目	動画編集: 動画を使った動画作成、カット、文字入れができるようになる。書き出しができるようになる。
9回目	動画課題①: 1分間の動画作成(テーマ: 各自で決めてもらいます。)
10回目	動画上映会: 各自作成した動画の上映会をします。なぜこのテーマにしたのか、こだわりポイントをみなさんに解説してもらいます。
11回目	SNS(インスタ)への投稿、商業利用時の注意点と著作権について、他SNSでのトラブル紹介
12回目	撮影練習: 撮影する上での注意点、テクニックを説明したのち、各自撮影体験をする。
13回目	動画課題②-1: 1分間の動画作成(テーマ: 動物紹介) 今まで使った技を使い自由に動画作成
14回目	動画課題②-2: 1分間の動画作成(テーマ: 動物紹介) 今まで使った技を使い自由に動画作成
15回目	動画上映会: 各自作成した動画の上映会をしSNSに投稿
準備学習 時間外学習	授業時間だけでは使える様にはなりません。 授業時間外でどれだけパソコンを触り、疑問に思うかがスキルアップの近道です。 予習復習を是非して下さい。 そして、身近にある物にコレはどの様に作っているのか興味を持ってください。 分だったらこんな風に作るのになと、考える事をしてみて欲しいです。
評価方法	・出席点: 60% ・課題提出: 40%
【使用教科書・教材・参考書】 課題資料を配布します。	

自

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	犬の行動学 (Study of Dog Behaviour)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	本村 直子
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日4時限
【授業の学習内容】 犬という動物と関わる上で、犬を正しく理解する事は重要である。 この授業ではそのための基本となる“犬の生態、行動、心理”について学ぶ。 ※担当教員実務経験:犬の飼育環境やコミュニケーションの方法等、飼い主と愛犬との暮らしをサポートするコンパニオンアニマル・アドバイザー。 飼い主とその愛犬の暮らしをより豊かなものにする為のカウンセリングやマナーズクール、セミナーを開催。							
【到達目標】 生物分類上の「犬」の位置付けを理解し説明できる。 犬の体の特徴や感覚機能を理解し説明できる。 犬のコミュニケーション方法を理解し説明できる。 犬の行動・心理を理解し説明できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業内容とすすめ方について説明、自己紹介
2回目	犬とは？（生物分類上の位置付けを理解する）
3回目	犬とは？（生物分類上の位置付けを理解する）
4回目	犬とは？（イエイヌとタイリクオオカミの関係を理解する）
5回目	犬の生態（体の特徴を理解する）
6回目	犬の生態（体の特徴を理解する）
7回目	犬の生態（体の特徴を理解する）
8回目	犬の生態（「イエイヌ」としての特徴を理解する）
9回目	犬の生態（「イエイヌ」としての特徴を理解する）
10回目	犬の生態（感覚機能の特性を理解する）
11回目	犬の生態（感覚機能の特性を理解する）
12回目	犬の生態（感覚機能の特性を理解する）
13回目	犬の生態（感覚機能の特性を理解する）
14回目	評価試験および振り返り
15回目	犬の生態（感覚機能の特性を理解する）
準備学習 時間外学習	「犬とはどういった特徴を持った動物なのか？」及び「動物たちの会話の方法」について事前に調べておくこと。それを授業の中で発表する。 授業で学んだことをノート等にまとめておくこと。 この授業を通して“動物のおもしろさ”を伝えたい。犬以外の動物にももっと興味を持って欲しい。
評価方法	筆記試験で100%評価。
【使用教科書・教材・参考書】 動物のこトバ入門(どうぶつ社) 犬と猫の行動学(インターズー) オオカミと野生のイヌ(エクスナレッジ)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	犬の行動学 (Study of Dog Behaviour)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	本村 直子
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日4時限
【授業の学習内容】 犬という動物と関わる上で、犬を正しく理解する事は重要である。 この授業ではそのための基本となる“犬の生態、行動、心理”について学ぶ。 ※担当教員実務経験:犬の飼育環境やコミュニケーションの方法等、飼い主と愛犬の暮らしをサポートするコンパニオンアニマル・アドバイザー。 飼い主とその愛犬の暮らしをより豊かなものにする為のカウンセリングやマナーズクール、セミナーを開催。							
【到達目標】 生物分類上の「犬」の位置付けを理解し説明できる。 犬の体の特徴や感覚機能を理解し説明できる。 犬のコミュニケーション方法を理解し説明できる。 犬の行動・心理を理解し説明できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	犬のコミュニケーション（動物のコミュニケーションの方法を理解する）
2回目	犬のコミュニケーション（動物の距離と空間における概念について理解する）
3回目	犬のコミュニケーション（異種間コミュニケーションについて理解する）
4回目	犬のコミュニケーション（犬の声の種類と意味を理解する）
5回目	犬のコミュニケーション（犬の表情を読み取り理解する）
6回目	犬のコミュニケーション（犬のボディランゲージを読み取り理解する）
7回目	犬のコミュニケーション（カーミング・シグナルについて理解する）
8回目	犬の行動学（オオカミの社会的行動を理解する）
9回目	犬の行動学（犬の社会的行動を理解する）
10回目	犬の行動学（犬の社会的行動を理解する）
11回目	犬の行動学（犬の社会的行動を理解する）
12回目	犬の行動学（犬の採食行動を理解する）
13回目	犬の行動学（犬の性行動を理解する）
14回目	犬の行動学（犬の性行動を理解する）
15回目	犬の行動学（仔犬の発達行動を理解する）
準備学習 時間外学習	「犬とはどういった特徴を持った動物なのか？」及び「動物たちの会話の方法」について事前に調べておくこと。それを授業の中で発表する。 授業で学んだことをノート等にまとめておくこと。 この授業が「ソロモンの指環」になれば嬉しい。
評価方法	レポートで100%評価。
【使用教科書・教材・参考書】 動物のこば入門(どうぶつ社) 犬と猫の行動学(インターズー) オオカミと野生のイヌ(エクスナレッジ)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	問題行動トレーニング (Training in Problem Solving)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山本 祐紀
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限
【授業の学習内容】 ドッグトレーナーとして飼い主の相談を受ける際には、トレーニングの技術だけでなく犬の飼育環境や同居者との関わり、家族構成、様々な情報から問題の本質を考える力が必要となる。この授業では犬のしつけの相談事例に関する原因や改善策、飼い主への伝え方を学ぶ。 ※担当教員実務経験：飼い主向けに犬のしつけ相談やデイクケア等のサービスを提供する施設を運営する傍ら、セミナー講師も務める。							
【到達目標】 現代の飼い主が求める犬との暮らし方を理解し、更にビジネスに繋げる。 犬の問題行動の原因を、環境や飼い主の行動から考え、ケースデータを作成する。 対飼い主に、聞く・説明する・相談に答える・飼い主を支えるなどの接客技術を発揮できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	これからの授業について。ビジネスの成長戦略としてしつけ相談を考える。
2回目	ケースデータ【一人暮らしで犬を飼った時に起こり得る問題行動とその原因】を作成
3回目	ケースデータ【一人暮らしで犬を飼った時に起こり得る問題行動とその原因】を作成
4回目	ケースデータ【子どもがいる家族で犬を飼った時に起こり得る問題行動とその原因】を作成
5回目	ケースデータ【子どもがいる家族で犬を飼った時に起こり得る問題行動とその原因】を作成
6回目	ケースデータ【複数頭で犬を飼った時に起こり得る問題行動とその原因】を作成
7回目	しつけがうまくいかない理由の把握する。
8回目	お悩み相談を受ける前に必要なこと。
9回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容：食事に関する質問】
10回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容：食事に関する質問】
11回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容：食事に関する質問】
12回目	カウンセリング技術と心理テクニック
13回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容：食事に関する質問】
14回目	評価試験及び振り返り
15回目	試験の解説
準備学習 時間外学習	事前学習として、授業の理解度を高めるには他の授業項目の知識も必要とする。その為必要な知識を事前に復習すること。 事後学習としては、授業で学ぶカウンセリング技術や対話術などは、日常生活から使えるテクニックとして説明する。 必要に応じテクニックを実践して使い方を確認し、効果を実感すること。
評価方法	筆記試験において100%評価。
【使用教科書・教材・参考書】 講師作成資料(プリント配布) 参考書:「犬の心理栄養学(入門編)」「素晴らしき家族(ドッグライフカウンセラー教本)」「動物と子供の関係学」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	問題行動トレーニング (Training in Problem Solving)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山本 祐紀
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限
【授業の学習内容】 ドッグトレーナーとして飼い主の相談を受ける際には、トレーニングの技術だけでなく犬の飼育環境や同居者との関わり、家族構成、様々な情報から問題の本質を考える力が必要となる。この授業では犬のしつけの相談事例に関する原因や改善策、飼い主への伝え方を学ぶ。 ※担当教員実務経験: 飼い主向けに犬のしつけ相談やデイクア等のサービスを提供する施設を運営する傍ら、セミナー講師も務める。							
【到達目標】 現代の飼い主が求める犬との暮らし方を理解し、更にビジネスに繋げる。 犬の問題行動の原因を、環境や飼い主の行動から考え、ケースデータを作成する。 対飼い主に、聞く・説明する・相談に答える・飼い主を支えるなどの接客技術を発揮できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容：食事に関する質問】
2回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容：食事に関する質問】
3回目	カウンセリング技術と心理テクニック
4回目	トイレトレーニングに関する基礎知識
5回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容：トイレトレーニング】
6回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容：トイレトレーニング】
7回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容：トイレトレーニング】
8回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容：トイレトレーニング】
9回目	カウンセリング技術と心理テクニック
10回目	カウンセリング技術と心理テクニック
11回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容：トイレトレーニング】
12回目	実際の相談事例を元に、数件の相談を解決していく。【相談内容：トイレトレーニング】
13回目	カウンセリング技術と心理テクニック
14回目	カウンセリング技術と心理テクニック
15回目	評価試験・1年間のまとめ
準備学習 時間外学習	事前学習として、授業の理解度を高めるには他の授業項目の知識も必要とする。その為必要な知識を事前に復習すること。 事後学習としては、授業で学ぶカウンセリング技術や対話術などは、日常生活から使えるテクニックとして説明する。 必要に応じテクニックを実践して使い方を確認し、効果を実感すること。
評価方法	筆記試験において100%評価。
【使用教科書・教材・参考書】 講師作成資料(プリント配布) 参考書:「犬の心理栄養学(入門編)」「素晴らしき家族(ドッグライフカウンセラー教本)」「犬の頭がグングンよくなる育て方」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	家庭犬トレーニング演習Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	金川 英樹
	(Family Dog Practical training Ⅱ)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4時限
【授業の学習内容】 ドッグトレーナー(インストラクター)として飼い主からの信頼を得るためには、トレーニングに関わる試験への取り組みやセミナー等への参加による広い視野を持つことが重要である。この授業では実際に行われている検定試験の項目に沿ったトレーニングやケア、ハンドラーとしての身のこなしをドッグトレーナーから学び、学内飼育犬と共に実践する。また、要所において振り返りや意見交換を行い、自分自身の課題を見つけるきっかけとする。 ※担当教員実務経験:犬のしつけ教室・幼稚園を運営する、JAHA認定の家庭犬しつけインストラクター。							
【到達目標】 マナーハンドラーテストの項目を理解し、自身の課題を発見・改善する事で合格相当の力を身に付ける。 犬の学習のプロセスへの理解を深め、それを応用したクリックートレーニングを実践できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	座学:オリエンテーション(マナーチャレンジテスト 上級の概要) トレーニングの目的 褒める→報酬の関係性
2回目	座学:行動の組み立て 実技:ハンドリング ヒールポジション
3回目	座学:社会化と学習理論のおさらい 実技:ヒールポジション ステップアップ ヒールウォーク
4回目	実技: 待て(お座り・伏せ)
5回目	実技: 待て(お座り・伏せ) ステップアップ
6回目	座学&実技:クリックートレーニング(基礎)
7回目	座学&実技:クリックートレーニング(ターゲット)
8回目	座学&実技:クリックートレーニング(ターゲット)ステップアップ
9回目	座学&実技:クリックートレーニング(応用)
10回目	座学&実技:クリックートレーニング(応用)ステップアップ
11回目	座学&実技:クリックートレーニング(応用)ステップアップ
12回目	座学&実技:クリックートレーニング(応用)ステップアップ
13回目	実技:テスト前の復習
14回目	実技テスト
15回目	座学:子犬のお悩み行動①
準備学習 時間外学習	準備学習として、事前に配布したプリントを熟読して授業に臨むこと。 また、毎回授業始めに前回授業についての質疑応答を行うので、授業で学んだことと、配布されたプリントを読み直して振り返りを行うこと。
評価方法	授業内での授業態度(70%) 筆記テストor実技テストで評価(30%)
【使用教科書・教材・参考書】 使用教材:プリント配布 データ(PDFなどチームスへ添付) 参考図書:テリー先生の犬のしつけ方教室 エクセレーテッドラーニング 相性の良いわんこがわかる本 カーミングシグナル	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	家庭犬トレーニング演習Ⅱ (Family Dog Practical training Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	金川 英樹
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日4時限
【授業の学習内容】 ドッグトレーナー(インストラクター)として飼い主からの信頼を得るためには、トレーニングに関わる試験への取り組みやセミナー等への参加による広い視野を持つことが重要である。この授業では実際に行われている検定試験の項目に沿ったトレーニングやケア、ハンドラーとしての身のこなしをドッグトレーナーから学び、学内飼育犬と共に実践する。また、要所において振り返りや意見交換を行い、自分自身の課題を見つけるきっかけとする。 ※担当教員実務経験:犬のしつけ教室・幼稚園を運営する、JAHA認定の家庭犬しつけインストラクター。							
【到達目標】 一般の愛犬家からのニーズが高まっている犬に優しい正の強化を応用したトレーニングを実践できるようになる。 トレーニングの実践だけでなく、犬の学習におけるプロセスを理解した上で行えるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	座学:子犬のお悩み行動② 行動形成 トレーニングの組み立て
2回目	実技:口輪や洋服などの装着トレーニング
3回目	実技:口輪や洋服などの装着トレーニング
4回目	実技:刺激の中でのヒールウォーク
5回目	実技:刺激の中でのヒールウォーク
6回目	座学:トレーニング学
7回目	実技:指示後トレーニング
8回目	実技:遠隔での指示トレーニング①
9回目	実技:遠隔での指示トレーニング②
10回目	実技:立つ ポジショニング①
11回目	実技:立つ ポジショニング②
12回目	テスト前の復習
13回目	テスト前の復習
14回目	実技テスト
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	準備学習として、事前に配布したプリントを熟読して授業に臨むこと。 また、毎回授業始めに前回授業についての質疑応答を行うので、授業で学んだことと、配布されたプリントを読み直して振り返りを行うこと。
評価方法	授業内での授業態度(70%) 筆記テストor実技テストで評価(30%)
【使用教科書・教材・参考書】 使用教材:プリント配布 データ(PDFなどチームスへ添付) 参考図書:テリー先生の犬のしつけ方教室 エクセラーテッドラーニング 相性の良いわんこがわかる本 カーミングシグナル	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習Ⅱ (Practice of Dog training Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	左藤 珠代
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日2時限
【授業の学習内容】 犬の訓練士として長く経験を積み重ねる過程では、犬の訓練試験や競技会に対応する技術を身に付ける必要がある。 この授業では主に家庭犬訓練試験初等科及び中等科の訓練課目における犬の指導手としての動き方や審査について学び、学内飼育犬と共に実践する。 ※担当教員実務経験：(一般社団法人)ジャパンケネルクラブ 訓練範士 ドッグラン、しつけ教室、アジリティー教室を20年間運営。 現在は出張訓練専門とし、競技会での審査員、アジリティー競技会のチーフスチュワートの役割を担う。							
【到達目標】 JKCにおける家庭犬訓練試験初等科・中等科(CDⅠ・CDⅡ)科目に関して、審査される側としての実施要項を意識した動作ができるようになる。 1年次に学んだ指導手としての姿勢やリードの使い方、指示のタイミング等を反復して上達させる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	犬と指導手のペア決め、1年間の目標決め
2回目	各犬のテーマ（訓練内容絞り込み）
3回目	立止の教え方（フォームの徹底、姿勢のキープ）
4回目	訓練用語（JKC・家庭犬訓練試験中等科説明）、立止（同上の反復）
5回目	脚側行進（コーナーのコツ）
6回目	脚側行進（コーナーのコツ）
7回目	中間評価、筆記テスト（JKC・家庭犬訓練試験中等科の記述）及び振り返り
8回目	招呼（ロングリードの使い方）
9回目	招呼（出発から脚側停座まで）
10回目	招呼（フリーからの招呼の教え方）
11回目	脚側行進、脚側停座、コーナーの処理
12回目	脚側行進、脚側停座、コーナーの処理
13回目	前期学習事項反復練習
14回目	前期評価および振り返り（コマンド、リード、犬の誘導）
15回目	前期復習
準備学習 時間外学習	学習準備として、授業で使用する「犬種」の特徴や習性等を調べておくこと。 また、授業前には、前回の授業の振り返りを行うので、学んだことを整理してノートにまとめておくこと。 課目実行の犬の動作が正しいのか観察、犬の目線を追う練習を求む。
評価方法	筆記試験/実技試験 授業態度:20% 中間評価:20% 実技評価:60%
【使用教科書・教材・参考書】 参考図書:JKC犬種標準書、JKC訓練基本マニュアル	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習Ⅱ (Practice of Dog training Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	左藤 珠代
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日2時限
【授業の学習内容】 犬の訓練士として長く経験を積み重ねる過程では、犬の訓練試験や競技会に対応する技術を身に付ける必要がある。 この授業では主に家庭犬訓練試験初等科及び中等科の訓練課目における犬の指導手としての動き方や審査について学び、学内飼育犬と共に実践する。 ※担当教員実務経験:(一般社団法人)ジャパンケネルクラブ 訓練範士 ドッグラン、しつけ教室、アジリティー教室を20年間運営。 現在は出張訓練専門とし、競技会での審査員、アジリティー競技会のチーフスチュワートの役割を担う。							
【到達目標】 JKCにおける家庭犬訓練試験初等科・中等科(CDⅠ・CDⅡ)科目に関して、審査される側としての実施要項を意識した動作ができるようになる。 1年次に学んだ指導手としての姿勢やリードの使い方、指示のタイミング等を反復して上達させる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	「立止」 確実性アップトレーニング
2回目	ノーリードでの「停座」「伏臥」「立止」
3回目	ノーリードに向けた脚側行進、指導手の姿勢練習
4回目	ノーリードに向けた脚側行進、指導手の姿勢練習
5回目	脚側停座の位置のズレの原因と修正
6回目	何故、犬は1回目のコマンドで実行しない。出来ないのか？
7回目	中間評価 筆記テスト (JKC家庭犬訓練試験中等科の記述) 及び振り返り
8回目	ノーリードでの「招呼」 (犬の出発・意欲)
9回目	ノーリードでの「招呼」 (犬の動線・脚側停座まで)
10回目	紐無し脚側行進に向けた練習 (指導手の姿勢)
11回目	紐無し脚側行進に向けた練習 (犬の集中力持続)
12回目	紐無し脚側行進に向けた練習 (無言でコーナーを曲がるには)
13回目	後期学習事項反復練習
14回目	JKC家庭犬訓練試験初等科模擬テストおよび振り返り
15回目	総復習
準備学習 時間外学習	学習準備として、授業で使用する「犬種」の特徴や習性等を調べておくこと。 また、授業前には、前回の授業の振り返りを行うので、学んだことを整理してノートにまとめておくこと。 日頃より犬の行動を観察を観察する事。特に犬の目線、犬の動きのイメージトレーニングをしておくこと。
評価方法	筆記試験/実技試験 授業態度:20% 中間評価:20% 実技評価:60%
【使用教科書・教材・参考書】 参考図書:JKC犬種標準書、JKC訓練基本マニュアル	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	犬との暮らし方教室 (Living with your Dog: Training and Advice)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	神谷 三千代
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日1.2時限
【授業の学習内容】 ドッグトレーナーとして、トレーニングを行うだけでなく飼い主と愛犬の関係性や飼育環境等から犬へのアプローチを考え、提案する(伝える)力が必要となる。 この授業ではお客様の愛犬をお預かりし、学生主体でトレーニングの計画や改善方法、飼い主へのアドバイスを考え実践する事でドッグトレーナーとしての飼い主や犬との接し方を学ぶ。トレーニングや飼い主対応の学生指導はドッグトレーナーが行う。 ※担当教員実務経験:家庭訓練所に7年間在籍しJKC(ジャパンケネルクラブ)公認訓練士の資格を取得。その後、犬の学校SMILE DOGを開校。 現在は犬の学校SMILE DOGの代表。							
【到達目標】 犬をよく観察し、犬の個性や状況に合わせた適切な対応ができるようになる。 効率を考えたトレーニングの計画を立て、飼い主へ上手に伝える事ができるようになる。 担当の犬の問題行動改善に繋がるトレーニングや、生活環境へのアドバイスができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己紹介/学校犬観察/クリッカーゲーム
2回目	ボディランゲージ/カーミングシグナル「犬との暮らし方教室」の注意点、やる事
3回目	①<飼い主様参加日>担当犬初対面、飼い主様との面談、聞き取り
4回目	②担当犬トレーニング開始
5回目	③外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
6回目	④外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
7回目	⑤<飼い主様参加日>外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
8回目	⑥外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
9回目	⑦外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
10回目	⑧外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
11回目	⑨外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
12回目	⑩<飼い主様参加日>外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
13回目	⑪<飼い主様参加日>外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
14回目	⑫外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
15回目	⑬<飼い主様参加日>外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
準備学習 時間外学習	記録日記から課題、やり方を確認と修正をまとめ飼い主様に還元する。 犬ごとのスキルに合わせたイベント企画のまとめ。
評価方法	筆記試験・授業内評価 レポート評価:70% 授業参加度:30%
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料 クリッカー、オヤツ、フード、オモチャ(ボール、紐 etc...) 知育オモチャ、ボーチ、ロングリード、長めの紐3~5m	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	犬との暮らし方教室 (Living with your Dog: Training and Advice)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	神谷 三千代
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日1.2時限
【授業の学習内容】 ドッグトレーナーとして、トレーニングを行うだけでなく飼い主と愛犬の関係性や飼育環境等から犬へのアプローチを考え、提案する(伝える)力が必要となる。 この授業ではお客様の愛犬をお預かりし、学生主体でトレーニングの計画や改善方法、飼い主へのアドバイスを考え実践する事でドッグトレーナーとしての飼い主や犬との接し方を学ぶ。トレーニングや飼い主対応の学生指導はドッグトレーナーが行う。 ※担当教員実務経験:家庭訓練所に7年間在籍しJKC(ジャパンケネルクラブ)公認訓練士の資格を取得。その後、犬の学校SMILE DOGを開校。 現在は犬の学校SMILE DOGの代表。							
【到達目標】 犬をよく観察し、犬の個性や状況に合わせた適切な対応ができるようになる。 効率を考えたトレーニングの計画を立て、飼い主へ上手に伝える事ができるようになる。 担当の犬の問題行動改善に繋がるトレーニングや、生活環境へのアドバイスができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	<飼い主様参加日>発表会に向けての計画立て
2回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
3回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
4回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
5回目	<飼い主様参加日>外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
6回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
7回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
8回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
9回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
10回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
11回目	<飼い主様参加日>発表会本番
12回目	<飼い主様参加日>外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
13回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
14回目	外散歩 お手入れ トレーニング計画立て ノートへの記録 犬との遊び方 トレーニング理論
15回目	<飼い主様参加日>最終日の為、飼い主様とのお別れ会
準備学習 時間外学習	記録日記から課題、やり方を確認と修正をまとめ飼い主様に還元する。 犬ごとのスキルに合わせたイベント企画のまとめ。
評価方法	筆記試験・授業内評価 レポート評価:70% 授業参加度:30%
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料 クリッカー、オヤツ、フード、オモチャ(ボール、紐 etc...) 知育オモチャ、ボーチ、ロングリード、長めの紐3~5m	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	学内犬飼育演習 (Dog Care Practice)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	牟田杏奈
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限
【授業の学習内容】 関わる学内犬について理解し関係を築くは今後のトレーニング演習での犬の扱いや反応にも影響する。この授業では、飼育管理で必要となる。犬舎の衛生管理、日頃の体調管理、犬とのコミュニケーションを学び実践する。 ※担当教員実務経験:家庭犬トレーナーとして、しつけ教室の業務経験と災害救助犬の訓練士として現場経験あり。							
【到達目標】 ・犬舎を衛生に保つための掃除が出来る。 ・学内犬のコンディションを自らチェックし、正常な状態との違いに気づくことが出来る。 ・学内犬の課題(問題行動)に取り組む事が出来る。犬の適切な運動に取り組む事が出来るか。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	オリエンテーション (1年時復習) ①
2回目	1年の復習②
3回目	学内犬飼育演習① (排泄だし)
4回目	学内犬飼育演習② (健康管理)
5回目	学内犬飼育演習⑤ (衛生管理に気を付ける)
6回目	学内犬飼育演習⑥ (衛生管理に気を付ける2)
7回目	学内犬飼育演習⑦ (飼育の改善点)
8回目	学内犬飼育演習⑧ (飼育の改善点)
9回目	学内犬飼育演習⑨ (食事・与え方)
10回目	学内犬飼育演習⑩ (餌づくり)
11回目	学内犬飼育演習⑪ (ハウスの仕方)
12回目	学内犬飼育演習⑫ (特徴・行動1)
13回目	学内犬飼育演習⑬ (特徴・行動)
14回目	前期評価 学内犬飼育⑭
15回目	前期授業振り返り
準備学習 時間外学習	授業の内容ノートにまとめる。
評価方法	授業内評価(態度、積極的参加、発言力)70% ノート提出30%
【使用教科書・教材・参考書】 作成資料 JKC訓練基本マニュアル・愛犬飼育管理士教本	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	警察犬トレーニングⅡ (Police Dog Training Ⅱ)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	吉岡 友里絵
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4・5時限
【授業の学習内容】 使役犬(警察犬)の育成において、訓練課目の実践だけでなく犬との関係性やモチベーションを引き出すコミュニケーションも必要である。この授業では、日本警察犬協会の公認訓練士から犬へのアプローチ及び警察犬訓練課目を学び、学内飼育犬と共に実践する。 ※担当教員実務経験：一般社団法人ジャパンケネルクラブ及び公益社団法人日本警察犬協会公認訓練士。 警察犬・家庭犬訓練所での訓練・飼育管理に携わり、各種競技会での入賞経験を持つ。							
【到達目標】 ・犬との関係性を築き、訓練へのモチベーションを引き出せる。 ・公認の警察犬訓練士になる過程を理解し、説明できる。 ・訓練競技会での訓練課目を理解し、説明できる。 ・競技科目の内、「服従訓練」「臭気選別」を実践できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己紹介/見習い訓練士の仕事説明/警察犬課目ビデオ鑑賞及び訓練課目の説明
2回目	担当犬と親和を取る(オモチャでの遊び、招呼の練習)/持来欲、食餌を使った脚側停座の練習
3回目	持来欲、食餌を使った停座、伏臥、立止の練習/持来欲、食餌を使った脚側行進の練習
4回目	服従の練習、選別布での遊び/服従の練習、選別布での持来練習
5回目	服従の練習、選別台を使った持来練習
6回目	服従の練習、誘惑臭を入れての選別(布1・2枚)
7回目	服従の練習、誘惑臭を入れての選別(布3・4枚)
8回目	中間評価及び振り返り
9回目	服従の練習、選別の練習
10回目	服従の練習、選別の練習
11回目	選別の予習
12回目	各自の課題点を発見及び練習/自臭を選別させていく
13回目	各自の課題点を発見及び練習/自臭を選別させていく
14回目	後期評価及び振り返り
15回目	年間の振り返り
準備学習 時間外学習	授業内容(トレーニング)内容をノート・レポートにまとめること。
評価方法	評価(筆記):100%
【使用教科書・教材・参考書】 警察犬協会豆辞典 警察犬訓練科目教本 公認訓練士に関する規定	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	補助犬トレーニングⅡ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	木村 有希
	(Assistance Dog Training Ⅱ)	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	不定期
【授業の学習内容】 介助犬及びその他の補助犬の育成に携わる上で、身体の不自由な方が社会生活を送る上での介助犬の役割や必要性を理解した上でトレーニングに取り組むことが必要とされる。この授業では補助犬育成に携わる訓練士から補助犬の歴史や現代における必要性、他の使役犬との訓練の違いを学び、実践する。 ※担当教員実務経験：介助犬トレーナー。京都アシスタントドッグ育成協会代表。JKC公認訓練士							
【到達目標】 ・補助犬の歴史や法律、国内での普及に関して理解し、説明できる。 ・介助犬としての適性を理解し、犬を観察できるようになる。 ・ユーザーとの合同訓練やその後の生活を見据えた、家庭犬やその他使役犬とのトレーニングの違いを理解し、実践及び配慮できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己紹介 補助犬について
2回目	補助犬に使用される犬種、補助犬の歴史
3回目	補助犬法、トレーニング
4回目	補助犬の育成 繁殖、トレーニング
5回目	補助犬の育成 仔犬の飼育、トレーニング
6回目	補助犬の適正テスト
7回目	介助犬の育成 車椅子の操作、トレーニング
8回目	介助犬の育成 服従訓練、トレーニング
9回目	介助犬の育成 介助動作1
10回目	介助犬の育成 介助動作2、介助犬の合同訓練
11回目	盲導犬日について、聴導犬について、聴導犬盲導犬の訓練
12回目	フォローアップについて、補助犬のリタイア
13回目	セラビー犬活動 補助の啓発活動
14回目	トレーニング
15回目	トレーニング
準備学習 時間外学習	授業内容(トレーニング実施)の記録を、レポート用紙にまとめること。
評価方法	筆記試験/実技試験 筆記試験： 実技試験：50% 授業参加姿勢50%
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	セラピー犬トレーニングⅡ (Therapy Dog TrainingⅡ)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	坪井 芳子
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期・後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3時限
【授業の学習内容】							
AAI(Animal Assisted Interaction)、HABの理念を理解する。新たにAAS、HAIと世界の流れがあることを理解する。CAPP認定セラピー犬認定基準評価テスト、JAHAマナーチャレンジテストを取り入れ、犬とのより良い関係を作るトレーニングを学ぶ。 ※担当教員実務経験:JAHA認定しつけインストラクター							
動物介在活動を正しく理解する。メリット、デメリットを理解する。対象となる人々への理解を深める事により、セラピー犬に求められることを理解し、トレーニング出来るようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己紹介 ガイダンス ハンドリング
2回目	AAI HAB (原始の血の説 バイオフィリア)、学習理論 AAA セラピー犬認定テストの説明 学習理論 ハンドリング
3回目	AAT AAE 学習理論 ハンドリング、小テスト ハンドリング
4回目	小テスト振り返り ハンドリング
5回目	活動に関わる人々；対象者 学習理論 ハンドリング、活動に関わる人々；ボランティア 犬 学習理論 ハンドリング
6回目	施設に求める基準 前回までの振り返り ハンドリング、小テスト ハンドリングテスト
7回目	癒しとは ハンドリング、日常の活動犬の管理 ハンドリング
8回目	参加できる動物 出来ない動物 復習、振り返り
9回目	CAPP認定パートナーズとは 学習理論 ハンドリング
10回目	人の適正 学習理論 ハンドリング、動物の適正 学習理論 ハンドリング
11回目	会話の技術 学習理論 ハンドリング、CAPPの流れ 学習理論 ハンドリング
12回目	小テスト及び振り返り 安全管理 ハンドリング、社会的報酬 学習理論 ハンドリング
13回目	施設に求める基準 前回までの振り返り ハンドリング、小テスト及び振り返り 学習理論 ハンドリング
14回目	学習理論 ハンドリング、1年間の振り返り ハンドリングテスト (予備)
15回目	期末評価週 振り返り、テスト振り返り
準備学習 時間外学習	授業内容(トレーニング実施)の記録を、レポート用紙にまとめること。
評価方法	筆記試験/実技試験 筆記試験:50% 実技試験:30% 小テスト:20%
【使用教科書・教材・参考書】	
配布プリント、犬語図鑑(KADOKAWA)動物が幸せを感じる時(NHK出版)犬と人の絆(緑書房)イヌは愛である(早川書房) ※犬語図鑑は購入をおすすめします。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物栄養学 (Animal Nutrition Science)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	本村 伸子
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日5時限
【授業の学習内容】 犬の体調やライフステージに応じた食事は、犬の健康状態及び暮らしそのものを豊かにする重要な要素である。 この授業では、犬が健康を保つために必要な栄養素を学ぶとともに、授業内での手作り食の実演を行う。 ※担当教員実務経験：獣医師。ナチュラルケア・アドバイザーとして犬の病気の予防や食事に関するセミナーを開催。							
【到達目標】 犬が生活するうえで必要とする栄養素を理解し、説明できる。 栄養を摂取する為に必要な方法や食材を理解し、説明できる。 犬の体調やライフステージに合わせた食事を検討・提案できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業の進め方
2回目	ペットフードの選び方① 添加物：脂肪の酸化と酸化防止剤
3回目	ペットフードの選び方① 添加物：注意する成分
4回目	ペットフードの選び方② 原材料：注意する成分
5回目	ペットフードの選び方③ 保証分析値
6回目	ペットフードの選び方④ 手作り食との併用：消化性白血球増加症
7回目	ペットフードの選び方④ 手作り食との併用：移行方法
8回目	ペットフードの選び方⑤ グレインフリーとは/拡張型心筋症の問題
9回目	体の構造と栄養素：肉食動物と草食動物の体の違いを理解する
10回目	体の構造と栄養素：猫と犬の栄養素の違いを理解する
11回目	猫の生態：猫に多い尿路系疾患の原因を猫の生態を通じて理解する
12回目	猫の食事管理：猫の体を考えた食事の給仕方法を理解する
13回目	猫の食事管理：猫に与えてはいけない食材について理解する
14回目	レポート提出/手作り食のまとめ
15回目	前期のまとめと質疑応答
準備学習 時間外学習	予習：飼っている犬、猫が食べているペットフード・自身の食事(ジュースやお弁当)の中身について調査する。 復習：授業で学んだ様々な添加物について調べて、レポートに内容をまとめること。福岡にて定期的に行われている「Eat & Heartセミナー」の受講をするとさらに知識が増える。読むと良い書籍として「シッポの『願い』」、「愛犬を病氣肥満から守る健康ごはん」
評価方法	レポート評価：学んだ犬の食事を写真と内容について説明文を記載したレポートの提出で100%評価。
【使用教科書・教材・参考書】 参考図書：「もう迷わないペットの健康ごはん」、「シッポの『願い』」 DVD教材：「犬との生活の仕方を考える」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物栄養学 (Animal Nutrition Science)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	本村 伸子
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日5時限
【授業の学習内容】 犬の体調やライフステージに応じた食事は、犬の健康状態及び暮らしそのものを豊かにする重要な要素である。 この授業では、犬が健康を保つために必要な栄養素を学ぶとともに、授業内での手作り食の実演を行う。 ※担当教員実務経験：獣医師。ナチュラルケア・アドバイザーとして犬の病気の予防や食事に関するセミナーを開催。							
【到達目標】 犬が生活するうえで必要とする栄養素を理解し、説明できる。 栄養を摂取する為に必要な方法や食材を理解し、説明できる。 犬の体調やライフステージに合わせた食事を検討・提案できるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	栄養素① 糖質：糖質の役割を理解する
2回目	栄養素② タンパク質：タンパク質の種類と役割を理解する
3回目	栄養素② タンパク質：タンパク質の種類と役割を理解する
4回目	栄養素③ 脂質：脂質の役割を理解する
5回目	栄養素④ ビタミン：脂溶性ビタミン
6回目	栄養素④ ビタミン：水溶性ビタミン
7回目	栄養素⑤ 抗酸化物：抗酸化物の有用性について
8回目	栄養素⑤ 抗酸化物：抗酸化物の種類
9回目	幼齢期の健康管理：成長期と成犬の違いを理解する
10回目	幼齢期の健康管理：成長期に注意する問題点を理解する
11回目	老齢期の健康管理：老齢に見られる様々な体の変化を理解する
12回目	老齢期の食事管理：老齢期の動物に必要な食事について理解する
13回目	DVDを使って犬との生活について解説
14回目	口答試問
15回目	全体の復習と質疑応答
準備学習 時間外学習	予習：知っている栄養素についてまとめる 復習：授業で学んだ栄養素についての本を読む「もう迷わないペットの健康ごはん」
評価方法	口答試問：評価試験として学生さんの理解を深めるために口答での試験で100%評価
【使用教科書・教材・参考書】 参考図書：「もう迷わないペットの健康ごはん」 DVD教材：「犬との生活の仕方を考える」	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	繁殖と遺伝 (Breeding and Heredity)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	寺田 光徳
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日1時限
【授業の学習内容】 「その犬がどうあるべきか」ということを定めた犬種標準をよく把握し、発情から交配や出産、育仔について、食餌や健康管理、予防接種、駆虫、繁殖に関する病気などの医学的知識、遺伝学的な事を学ぶ。 ※担当教員実務経験：JKC福岡県クラブ連合会会長、JKC九州ブロックハンドラー委員会常任委員を務め、ドッグショーの審査、及び20年以上講師を勤める動物専門学校にて後進の指導を行い、フレンチブルドッグを専門に繁殖。ショーに参加して犬質の向上に尽力している							
【到達目標】 犬種標準・交配の良否・牡、牝犬の生殖生理の基礎知識を学び、ブリーディングの知識を身に付ける。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	繁殖とは
2回目	繁殖と目的について
3回目	繁殖の分類について学ぶ
4回目	血統書について
5回目	血統書 繁殖生理(生殖器官の構造)
6回目	生殖器官の構造 雄犬の繁殖生理
7回目	雌犬の繁殖生理について
8回目	雌犬の選び方
9回目	交配について
10回目	妊娠について
11回目	出産について
12回目	出産について
13回目	育仔と仔犬の成長 新生仔の育て方について
14回目	評価試験および振り返り
15回目	遺伝と育種について
準備学習 時間外学習	繁殖学 プリント配布
評価方法	筆記試験(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 配布されたプリントの次の授業の予習を行っておく。	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ナチュラルケア (Natural Care)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	本村 直子
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日1時限
【授業の学習内容】 犬は家族であるという認識が日本においても定着してきた事で、犬に対するナチュラルケア(自然療法)への関心が年々高まっている。この授業では、ナチュラルケアの基本である「心身ともにバランスのとれた、病気になりにくい健康な身体作り」の為にどのようなケアが必要なのかをホリスティックな観点から学ぶ。 ※担当教員実務経験:犬の飼育環境やコミュニケーションの方法等、飼い主と愛犬との暮らしをサポートするコンパニオンアニマル・アドバイザー。 飼い主とその愛犬の暮らしをより豊かなものにする為のカウンセリングや マナースクール、セミナーなどを開催。							
【到達目標】 ナチュラルケアの基本的な概念を理解し説明できる 動物を管理する者として、まずは自分自身の管理が出来るようになる事 犬に対するナチュラルケア(正しい栄養、環境を整える、心の安定)の方法を理解し説明できる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業内容とすすめ方について説明、自己紹介
2回目	ナチュラルケアとは？（基本的な考え方を理解する）
3回目	ナチュラルケアとは？（心身の健康のために必要な事とは？…体のバランスについて理解する）
4回目	ナチュラルケアとは？（心身の健康のために必要な事とは？…体のバランスについて理解する）
5回目	ナチュラルケアとは？（心身の健康のために必要な事とは？…心のバランスについて理解する）
6回目	ナチュラルケアとは？（心身の健康のために必要な事とは？…気のバランスについて理解する）
7回目	犬に対するナチュラルケア（犬たちのために出来る事を考える）
8回目	犬に対するナチュラルケア（現代の犬たちのライフスタイルを考える）
9回目	犬に対するナチュラルケア（現代の犬たちのライフスタイルを考える）
10回目	犬に対するナチュラルケア（正しい栄養とは？を考える）
11回目	犬に対するナチュラルケア（環境を整えるとは？を考える）
12回目	犬に対するナチュラルケア（犬の心の安定とは？を考える）
13回目	犬に対するナチュラルケア（犬の心の安定とは？を考える）
14回目	評価試験および振り返り
15回目	犬に対するナチュラルケア（その他の療法として、マッサージ、テリントンタッチ、ハーブ、漢方薬、アロマテラピー、パッチフラワーレメディなどを紹介）
準備学習 時間外学習	自分自身の心身の健康(自分の心身の管理ができなければ動物の管理もできない)について見直してみる事。授業の中で改善すべき点を探し、発表する。 授業で学んだ事をノート等にまとめておくこと。「正しい栄養」に関しては「動物栄養学」の授業を参考にすること。
評価方法	筆記試験で100%評価
【使用教科書・教材・参考書】 動物を癒し、動物に癒される(チクサン出版社) ペットとホリスティックに暮らす(健康・食事・ライフスタイル)(中央アート出版社)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	人と動物の関係学 (Study on the Relationship between Human and Dogs)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高原 志保
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日2時限
【授業の学習内容】 人間社会の中で、人と動物の関わりの実態を知り、その効果とHABの理念を基にした社会福祉活動について学ぶ また、動物の飼養や利用する上での問題や課題について学ぶ ※担当教員実務経験:動物福祉の現場や動物介在活動に長年携わる。							
【到達目標】 動物と人の双方がもたらす心理的、生理的、社会的効果を説明できる。 AAA・AAT・AAEの違いを説明できる。 HABの効果を実感でき、自分がどうHABの活用を出来るか考え実践できる。 動物の飼養・利用上の問題や課題について考え、対処したりより良い関わり方を実践できる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己紹介・アンケート・ガイダンス
2回目	人と動物の関わり の歴史
3回目	人と動物の関わり の歴史Ⅱ・HAB研究のはじまり
4回目	人と動物の相互作用
5回目	人と動物の相互作用
6回目	お年寄り と ペット
7回目	子ども と ペット
8回目	障がい者 と ペット・補助犬
9回目	HABの活用 CAPP
10回目	HABの活用
11回目	動物観 動物虐待 破壊作用
12回目	破壊作用（動物が嫌いな人のワーク）
13回目	人から動物へのHAB
14回目	評価試験及び振り返り
15回目	テスト解答、解説 ペットロス グリーフケア
準備学習 時間外学習	配布プリントや教科書の予習、まとめなどの復習を行う。 レポートの作成。 小テストの実施と復習を行う。
評価方法	筆記試験 60% 授業内評価(小テスト・レポート) 40%
【使用教科書・教材・参考書】 ファームプレス 動物コア テキスト「人と動物の関係 1」 アニマルリテラシー総研 WEBサイト 無料記事	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	動物の法律 (Animal Laws and Regulations)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高山 清次
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 4時限
【授業の学習内容】							
ドッグトレーナーとして必要になると考えられる動物関連法規を学び、理解することを目的としている。 ※担当教員：麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 教育顧問を務める。							
【到達目標】							
ドッグトレーナーとして仕事をしていく上で、かならず必要となる動物関連法規を理解し、実践で活用できるようになることを目的としている。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	動物業界における関連法規の概略について理解できる
2回目	家畜伝染病予防法の成り立ちについて理解できる
3回目	愛がん動物用資材の安全性の確保に関する法律(ペットフード安全法)を理解できる
4回目	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律を理解できる
5回目	狂犬病予防法について理解できる
6回目	身体障害者補助犬法について理解できる。
7回目	動物の愛護及び管理に関する法律について理解できる
8回目	獣医師法、獣医療法について理解することができる
9回目	特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律について理解できる
10回目	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律について理解できる
11回目	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律について理解できる
12回目	廃棄物の処理及び清掃に関する法律について理解できる
13回目	絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約(ワシントン条約)について理解できる
14回目	評価試験および振り返り
15回目	評価試験返却・解説・まとめ
準備学習 時間外学習	学校の図書やインターネットを利用して、講義の範囲内を予習・復習する。
評価方法	定期試験の結果(80%)に、授業態度と参加度(20%)を加味して評価。
【使用教科書・教材・参考書】	
なし	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ドッグスポーツ演習Ⅱ (Basic Dog Sport Practice Ⅱ)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	中尾 直譜
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限
【授業の学習内容】							
犬とのコミュニケーションや関係性を構築する為に、犬も人も楽しんで取り組めるドッグスポーツは有効である。 この授業ではドッグスポーツの一種「アジリティ」の基本ルールから使用機材、コースの走り方等を学び、その楽しさを知る。 ※担当教員実務経験：しつけ及びアジリティ教室を運営。またアジリティ世界大会への出場経験を持つドッグトレーナー。							
【到達目標】							
アジリティの概要やルール、楽しさを理解する。 アジリティに使用する各種機材を正しく設置・使用できるようになる。 競技とドッグトレーニングとの関連性を理解して取り組めるようになる。 コースの走り方(障害物の乗り越え方)と各ポイントや注意点を理解して実践できるようになる。 以上をアジリティ初心者に正しく伝えられるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業オリエンテーション
2回目	犬のトレーニング(しつけ1)(アジティールール)
3回目	犬のトレーニング(しつけ2)(アジティールール)
4回目	ハードルを使用したトレーニング①
5回目	ハードルを使用したトレーニング②
6回目	アジリティ初級①
7回目	アジリティ初級②
8回目	オビディエンス中級/アジリティ中級①
9回目	オビディエンス中級/アジリティ中級②
10回目	オビディエンス中級及びアジリティ中級のクラス内コンペティション①
11回目	オビディエンス上級/アジリティ上級①
12回目	オビディエンス上級/アジリティ上級②
13回目	オビディエンス上級及びアジリティ上級のクラス内コンペティション①
14回目	オビディエンス上級及びアジリティ上級のクラス内コンペティション②
15回目	オビディエンス上級及びアジリティ上級のクラス内コンペティション③
準備学習 時間外学習	授業内容のまとめと復習をすること。 実習(競技会などへの見学参加)
評価方法	出席率100%
【使用教科書・教材・参考書】	
アジリティ機材、オリジナル資料や映像(アジリティー動画など)	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ディスクドッグ (Disc Dog)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	間 美加
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4時限
【授業の学習内容】 犬も人も楽しみながら取り組めるドッグスポーツは、互いの関係性をより強めるきっかけにもなる。この授業ではディスクドッグを通した犬とのコミュニケーションや育成の基礎を、犬種の特性を活かしたスポーツドッグの育成・トレーニングに長く携わる講師から学ぶ。 ※担当教員実務経験： 犬種の特性を活かしたスポーツドッグの育成・トレーニングに従事。日本フリスビードッグ協会主催のフリスビードッグ日本一を決める大会「ジャパンファイナル」で多くの優勝・入賞経験を持つ。							
【到達目標】 競技の概要や基本的なルールを説明できる ディスクの適切なスローイングができるようになる スポーツドッグ育成に向けた犬の体構造や必要なケア、トレーニングを理解し、説明できる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業オリエンテーション
2回目	犬の筋肉の付き方、ディスタンス及びフリーフライトのデモンストレーション
3回目	スローイング練習①(ディスクの握り方、バックハンド) トレーニング①ディスクへの興味
4回目	スローイング練習②(風向きへの対処、スロー時の角度調整) トレーニング②トス&フェチ(レトリーブ)
5回目	犬の熱中症予防と水分補給 トレーニング③受け渡し
6回目	犬の筋肉の見方とケア、犬へのマッサージ、ウォーミングアップとクールダウン
7回目	スローイング練習③(バックハンド、スキップ)、犬へのサプリメントの使用方法 トレーニング④モチベーション・コントロール
8回目	スローイング練習④(バックハンド、スキップ) トレーニング⑤競技犬としてのトレーニング
9回目	スローイング練習⑤(ローラー)、ローラーを活用したパピートレーニング
10回目	スローイング練習⑥(バックハンド、ローラー)
11回目	スローイング練習⑦(トリックスロー「スキップ」「サイドアーム」「アップサイドダウン」)
12回目	スローイング練習⑧(トリックスロー)、犬の水泳
13回目	犬のキャッチのタイミングとコントロール
14回目	評価試験
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	参考動画を見たり、可能な学生はフリスビードッグ大会の見学に行くこと。
評価方法	筆記試験50% 実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】 YouTube	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクト (Company Project)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	川島 秀樹
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 3・4 時限
【授業の学習内容】 企業や団体からの要請により犬との共生共存社会の実現に向けてプロジェクトに取り組む。(例:福岡県営東公園内でのドッグラン開催により犬の飼い主のマナーアップを図り、犬を飼っている人も飼っていない人も楽しめる社会を実現する) ※担当教員実務経験:2003年よりペットショップ経営。犬猫の部リーディングや飼育相談も行っている。また、自身の独立開業の経験をもとにフィナンシャルプランナーとして各種業種の企業の経営等の相談も行っている。							
【到達目標】 与えられた企業様からの課題に対して、自分たちで考えた企画にて運営を行い、課題目的をクリアする							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	①オリエンテーション ②実習実施概要オリエンテーション
2回目	③実習実施概要ディスカッション ④実施企画準備
3回目	⑤企画立案 ⑥ディスカッション
4回目	⑦演習準備 ⑧現場演習
5回目	⑨現場演習 ⑩現場演習
6回目	⑪振り返り ⑫企画立案、ディスカッショ
7回目	⑬企画立案、ディスカッション ⑭演習準備
8回目	⑮演習準備 ⑯現場演習
9回目	⑰現場演習 ⑱現場演習
10回目	⑲振り返り ⑳企画立案
11回目	㉑ディスカッション ㉒演習準備
12回目	㉓現場演習 ㉔現場演習
13回目	㉕現場演習 ㉖振り返り
14回目	㉗企画立案 ㉘ディスカッション
15回目	㉙企画まとめ ㉚前期振り返り
準備学習 時間外学習	事前に通達された各種課題を事前にアイディアとしてまとめ発表できるようにしておくこと
評価方法	講義態度・実習参加による
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナルテキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクト (Company Project)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	川島 秀樹
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 3・4 時限
【授業の学習内容】 企業や団体からの要請により犬との共生共存社会の実現に向けてプロジェクトに取り組む。(例:福岡県営東公園内でのドッグラン開催により犬の飼い主のマナーアップを図り、犬を飼っている人も飼っていない人も楽しめる社会を実現する) ※担当教員実務経験:2003年よりペットショップ経営。犬猫の部リーディングや飼育相談も行っている。また、自身の独立開業の経験をもとにフィナンシャルプランナーとして各種業種の企業の経営等の相談も行っている。							
【到達目標】 与えられた企業様からの課題に対して、自分たちで考えた企画にて運営を行い、課題目的をクリアする							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	①演習準備 ②演習実施
2回目	③演習実施 ④演習実施
3回目	⑤振り返り ⑥企画準備
4回目	⑦実習実施概要ディスカッション ⑧実施企画準備
5回目	⑨演習準備 ⑩演習実施
6回目	⑪演習実施 ⑫演習実施
7回目	⑬振り返り ⑭企画準備
8回目	⑮実習実施概要ディスカッション ⑯実施企画準備
9回目	⑰演習準備 ⑱演習実施
10回目	⑲演習実施 ⑳演習実施
11回目	㉑振り返り ㉒企画準備
12回目	㉓実習実施概要ディスカッション ㉔実施企画準備
13回目	㉕演習準備 ㉖演習準備
14回目	㉗演習実施 ㉘演習実施
15回目	㉙演習実施 ㉚振り返り
準備学習 時間外学習	事前に通達された各種課題を事前にアイディアとしてまとめ発表できるようにしておくこと
評価方法	講義態度・実習参加による
【使用教科書・教材・参考書】 講師オリジナルテキスト	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	卒業課題 (Graduation Study)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	村上 弘志
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 入学以来これまで身につけた専門知識や技術の集大成として、学習の成果が卒業に値する実力を修得しているか評価するために、研究発表または実技の披露を行う。							
【到達目標】 学習成果(知識・技術)をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表する。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	卒業課題とは① ～卒業課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	卒業課題とは② ～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	卒業課題の進め方 ～発表までの流れやスケジュールリングの確認～
4回目	テーマの決定 ～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習① ～自分(班)のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習② ～途中経過の報告～
7回目	実践学習③ ～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備① ～パワーポイント作成～
9回目	発表準備② ～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③ ～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④ ～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤ ～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	卒業課題の振り返り ～各自(班内)で意見交換、発表～
準備学習 時間外学習	各自(各班)で意見交換を随時行う。また、もらった意見を次に繋げる学習を行う。
評価方法	・発表内容:80% ・課題への参加度:20%
【使用教科書・教材・参考書】 専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	業界研修 (Business Internship)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	随時
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。 ※担当教員実務経験:研修先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。 ・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。 ・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。 ・自らの「キャリア」をデザインできる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表(20%) これらを総合的に判断して評価
【使用教科書・教材・参考書】 キャリアセンターの参考情報	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別講義&見学 (Special Lecture)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。 学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。 ※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 ・動物業界で必要な知識や技術を理解し、身に付ける。 ・動物業界で必要な人間力を理解し、身に付ける。 ・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。 ・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 キャリアセンターの参考情報	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション (Global Communication)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	前期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	未定
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。 ※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】							
知人・家族について話すことができる。職場でのフォーマルなメールを読む、また書くことができる。毎日していることについて話すことができる。ポッドキャストについての意見を読む、また書くことができる。今していることについて話すことができる。サービス業界の会社へのメッセージを読む、また書くことができる。招待する、またそれに応えることができる。イベントへの招待を読む、また書くことができる。人生の中での過去のイベントについて話すことができる。新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書くことができる。店内で欲しいものについて述べる。物事の言い方を英語で聞く。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	所有代名詞(whose)を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	自己紹介をする。職場でのフォーマルなメールを読む、書く	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	習慣・ルーティンについて質問する。[Wh-question]を練習する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	繰り返しを求める表現を学ぶ。意思疎通に問題があったことを説明する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「仕事や勉強のためのアプリについて発表する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	「現在進行形」「単純現在形」を練習する。スポーツ、運動について話す	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	サービス業界の会社へのメッセージを読む、書く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	将来のことを説明する際に使う「現在進行形」を学ぶ。将来のプランについて話す	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	招待する、招待に応える表現を学ぶ。招待を断る理由を説明する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「プレゼントを選ぶについて」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	「過去形」(陳述文の否定形;疑問文)を復習する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書く	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	[be going to]を復習する買い物に行くことについて会話する	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	店内で欲しいものについて述べる。物事の言い方を英語で聞く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	小テストの正解率にて評価 (前期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE2			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	グローバルコミュニケーション (Global Communication)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	後期
		実施方法	対面授業			曜日・時限	未定
【授業の学習内容】 リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。 ※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。							
【到達目標】 レストランで頼みたいものについて説明することができる。ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書くことができる。提案をする、また提案をうけることができる。海外生活についてのアドバイスを読む、また書くことができる。意見を尋ねる、また述べるができる。広告を読む、また写真の説明を書くことができる。将来の予想を立てることができる。アドバイスについてのメールを読む、また書くことができる。したことがあること、ないことについて話すことができる。インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書くことができる。天気について話すことができる。場所についての説明を読むことができる。方法についての説明リストを書くことができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容			
1回目	キッチンカーをデザインする「動詞型」を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
2回目	ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書く	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
3回目	[if / when]の使い方を学ぶ。自分の町で何をするかについて話す	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
4回目	「問い返し疑問文」を学ぶ。提案をする、また提案をうける表現を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
5回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「短期旅行のプランを立てる」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
6回目	「形容詞の最高級」を学ぶ。写真に写った人について話す	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
7回目	広告を読む、また写真の説明を書く	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[have to]の使い方を学ぶ。職場での危険を回避することについて話す	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	[It feels like (it' s like)]を使い、健康問題について話す;健康問題についてアドレスをもらう	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
10回目	スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「リアリティ番組を計画し、発表する」	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
11回目	ソーシャルメディア(ネット)生まれの動詞を学ぶ	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
12回目	インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書く	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
13回目	[be like]を使い、天気について話す	オンデマンド	小テスト(対面授業と連動)
14回目	道を聞く、道順を教える際に使う表現を学ぶ。言い改める際に使う表現を学ぶ、復習する	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて
準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。		
評価方法	小テストの正解率にて評価 (後期小テスト合計30回の正解率＝100%で計算)		
【使用教科書・教材・参考書】			
EVOLVE2			

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	イベント運営 (Event Management)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	村上 弘志
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。 企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。 ※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・企画立案、運営ができるようになる。 ・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。 ・接客を知り、実践できるようになる。 ・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。 ・予算管理を実践し習得する。 ・スケジュールリングを理解し、実践できる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備(50%) ・レポート(50%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去のイベント資料	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	特別課外活動 (Club Activities)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各クラブ顧問
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 学生会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。							
【到達目標】 ・チームワークを身に付ける。 ・計画性を身に付ける。 ・予算管理を身に付ける。 ・マネジメントを理解し身に付ける。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 ・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	ボランティア活動 (Volunteer Work)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。 ※担当教員:各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。							
【到達目標】 ・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。 ・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去のボランティア活動報告書	

2024年度 シラバス

科目名 (英語表記)	資格取得講座 (Seminar for a Qualification)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	村上 弘志
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	随時
		実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。							
【到達目標】 ・各検定試験、資格試験の合格							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 過去の各検定、資格教本	

科目名 (英語表記)	内定者研修 (Practical Training For Prospective Employees)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 就職内定者を対象に、就職内定先で実践的な研修など現場経験を積むことで、卒業時に即戦力として活躍できるようになる。 ※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 1. 就職内定先で業務を行う上で必要な経験を積み、卒業時には即戦力として活躍できる人材になる。 2. 就職内定先で業務を行う上で必要な専門知識・技術を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。 3. 就職内定先で業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	就職内定先において業務経験を積む（1）
2回目	就職内定先において業務経験を積む（2）
3回目	就職内定先において業務経験を積む（3）
4回目	就職内定先において業務経験を積む（4）
5回目	就職内定先において業務経験を積む（5）
6回目	就職内定先において業務経験を積む（6）
7回目	これまでの業務のまとめと振り返り
8回目	就職内定先において業務経験を積む（7）
9回目	就職内定先において業務経験を積む（8）
10回目	就職内定先において業務経験を積む（9）
11回目	就職内定先において業務経験を積む（10）
12回目	就職内定先において業務経験を積む（11）
13回目	就職内定先において業務経験を積む（12）
14回目	これまでの業務のまとめと振り返り
15回目	今後の課題とその対策をまとめる
準備学習 時間外学習	業務中に学んだこと、気づいたことなど、メモした内容を、ノート、word、excel、にまとめること。
評価方法	日々の業務における日報を就職内定先に提出し、就職内定先の方との面談による振り返りを行い、業務の習得度合いで評価を行う(100%)。
【使用教科書・教材・参考書】 	

科 目 名 (英語表記)	特別研究課題 (Advanced Research Project for Prospective Employees)	必修 選 択	必修選択	年 次	2	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	180 (12)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 就職内定者を対象に、就職内定先から従来の業務を改善する課題をいただき、どのような改善を行うことが作業の効率化が図れるか、これまで身につけた専門知識技術を総合的に発揮できるようになる。 ※担当教員実務経験:就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 1. 業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアをまとめることができる。 2. 課題を解決するアイデアを実践することができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (1)
2回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (2)
3回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (3)
4回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (4)
5回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (5)
6回目	課題を解決するアイデアを報告し、質疑応答を行う
7回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う (1)
8回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う (2)
9回目	ブラッシュアップしたアイデアを報告し、質疑応答を行う
10回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (1)
11回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (2)
12回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (3)
13回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (4)
14回目	検証結果をまとめる
15回目	検証結果の報告を行い、今回の課題改善の振り返りを行う
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excellにまとめること。
評価方法	課題を解決するアイデアを実践することで得られた結果を検証し、その報告内容によって評価する(100%)。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英語表記)	卒業企業課題 (Graduate Assignment for Prospective Employees)	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	就職内定先企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間 (単位)	180 (12)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時
【授業の学習内容】 就職内定者を対象に、就職内定先よりお客様が喜ぶようなイベントを考える課題をいただき、イベントの企画・立案を行う。 プレゼンテーション後に企画が採用されたら、その企画を実践する。 実施後には、振り返りを行い就職後の業務に活かす。 ※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。							
【到達目標】 1. お客様が喜ぶイベントの企画を立案することができる。 2. 企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションすることができる。 3. 採用されたイベント企画を実践することができる。							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (1)
2回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (2)
3回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (3)
4回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (1)
5回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (2)
6回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (3)
7回目	企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションする
8回目	プレゼンテーションでいただいた意見を参考に企画をブラッシュアップし、再度プレゼンテーションする
9回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (1)
10回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (2)
11回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (3)
12回目	企画したイベントの実践 (1)
13回目	企画したイベントの実践 (2)
14回目	企画したイベントの実践 (3)
15回目	イベントの振り返りとまとめ
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excellにまとめる。
評価方法	イベントの企画・立案力：30% プレゼンテーション力：30% 実践力：40% 上記の3段階に分けて、それぞれの評価を行う。
【使用教科書・教材・参考書】	